

鳥取県の推計人口（年報）

【令和元年10月～令和2年9月】

令和2年10月30日公表

鳥取県令和新時代創造本部統計課

目 次

用語の説明	1
利用上の注意	2
調査結果の概要	
I 鳥取県の推計人口	
1 推計人口と世帯数	3
2 年齢3区分別人口	4
II 人口動態	
1 概況	7
2 自然動態	
(1) 自然動態の推移	7
(2) 月別自然動態	8
3 社会動態	
(1) 社会動態の推移	8
(2) 月別社会動態	9
(3) 都道府県別（外国を含む）、男女別社会動態	9
(4) ブロック別の県外転入・転出	11
(5) 都道府県別（外国を含む）転入・転出超過数	11
(6) 年齢5歳階級別、男女別社会動態	12
III 市町村別推計人口	
1 市町村別の推計人口	13
2 年齢3区分別人口	
(1) 年少人口	14
(2) 生産年齢人口	14
(3) 老年人口	14
IV 市町村人口動態	
1 人口増減	15
2 自然動態	
(1) 市町村別自然動態	16
(2) 月別自然動態	17
(3) 男女別自然動態	17
3 社会動態	
(1) 市町村別社会動態	18
(2) 県内移動	19
(3) 県外転入・県外転出	20
(4) 4市における年齢5歳階級別、男女別県外転入転出	21
＜参考＞外国人（国籍不詳を含む）の推計人口	25

用 語 の 説 明

1 人 口 性 比

女性を100としたときの男性の割合

2 年 少 人 口

0歳～14歳の人口をいう。

3 生 産 年 齢 人 口

15歳～64歳の人口をいう。

4 老 年 人 口

65歳以上の人口をいう。

5 年 少 人 口 指 数

年少人口の生産年齢人口に対する比率をいう。

$$\text{年少人口指数} = \frac{\text{年少人口}}{\text{生産年齢人口}} \times 100$$

6 老 年 人 口 指 数

老年人口の生産年齢人口に対する比率をいう。

$$\text{老年人口指数} = \frac{\text{老年人口}}{\text{生産年齢人口}} \times 100$$

7 従 属 人 口 指 数

年少人口と老年人口が生産年齢人口に対して占める比率をいう。

$$\text{従属人口指数} = \frac{\text{年少人口} + \text{老年人口}}{\text{生産年齢人口}} \times 100$$

8 老 年 化 指 数

老年人口の年少人口に対する比率をいう。

$$\text{老年化指数} = \frac{\text{老年人口}}{\text{年少人口}} \times 100$$

9 動 態

(1) 人口動態…自然動態と社会動態を合わせた人口の動きをいう。

(2) 自然動態…一定期間における出生及び死亡に伴う人口の動きをいう。

(3) 社会動態…一定期間における転入及び転出に伴う人口の動きをいう。

10 移 動

(1) 移動者総数…県内移動者数(県内市町村間の転出入)と県外移動者数(県内外の転出入)を合計した数をいう。

(2) 実移動者総数…県内市町村間の転入者数と県外移動者数を合計した数をいう。

(3) 県内転入者数…県内の市町村から県内の他の市町村へ転入した者の数をいう。

(4) 県内転出者数…県内の市町村から県内の他の市町村へ転出した者の数をいう。この調査の県内移動については、転入だけを調査している。このため転出については、従前の住所地(市町村)により、算出した数である。

(5) 県外転入者数…県外(外国を含む)の市町村から県内の市町村へ転入した者の数をいう。

(6) 県外転出者数…県内の市町村から県外(外国を含む)の市町村へ転出した者の数をいう。

(7) 転入・転出超過数…転入者数から転出者数を差し引いた数で、プラスの場合を転入超過、マイナスの場合を転出超過という。

11 出 生 率 及 び 死 亡 率

(1) 出生率…人口に対する出生数の千分率(パーミル【‰】)をいう。

(2) 死亡率…人口に対する死亡数の千分率(パーミル【‰】)をいう。

1 2 移動者の年齢

令和2年10月1日現在の満年齢による。

1 3 自然増減数

出生者数から死亡者数を差し引いた数をいう。この場合、プラスは自然増加といい、マイナスは自然減少という。

1 4 自然増減率

人口に対する自然増減数の千分率(パーミル【‰】)をいう。

1 5 社会増減数

転入者数から転出者数を差し引いた数をいう。この場合、プラスは社会増加といい、マイナスは社会減少という。

1 6 社会増減率

人口に対する社会増減数の千分率(パーミル【‰】)をいう。

1 7 ブロック別区分

北海道…北海道

東 北…青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県

関 東…茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県

中 部…新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県

近 畿…滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県

中 国…島根県、岡山県、広島県、山口県

四 国…徳島県、香川県、愛媛県、高知県

九 州…福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

1 8 地域別区分

東 部…鳥取市、岩美町、若桜町、智頭町、八頭町

中 部…倉吉市、三朝町、湯梨浜町、琴浦町、北栄町

西 部…米子市、境港市、日吉津村、大山町、南部町、伯耆町、日南町、日野町、江府町

1 9 市郡別

市 部…鳥取市、米子市、倉吉市、境港市

郡 部…岩美郡、八頭郡、東伯郡、西伯郡、日野郡

利 用 上 の 注 意

- 1 鳥取県人口移動調査は、「住民基本台帳法」の規定により届出された者を対象に、出生数及び死亡数、転入者数及び転出者数を、それぞれ住民票の異動日を基準として各月ごとに調査したものである。なお、県内移動については、転入日をもって転出日としている。
- 2 推計人口とは、平成27年国勢調査結果を基に、各市町村から報告のあった各月の調査結果より推計したものである。
- 3 人口及び世帯の移動数は、令和元年10月から令和2年9月までの年間数値であり、市町村表記は令和2年9月末現在のもので記載している。

調 査 結 果 の 概 要

I 鳥取県の推計人口

1 推計人口と世帯数

鳥取県の推計人口は551,402人で、前年に比べ4,261人減少し、平成8年以降25年連続の減少となった。

令和2年10月1日現在の鳥取県の推計人口は、前年比4,261人減の551,402人であった。

昭和50年(581,311人)以降の推移をみると、昭和63年の616,371人をピークに減少傾向となり、平成6年及び7年に増加したものの、平成8年以降は25年連続の減少となった。この間、平成20年に60万人台、平成22年に59万人台、平成25年に58万人台、平成28年に57万人台を割り、平成29年から平成30年は56人台で推移し、令和元年では55万人台となった。

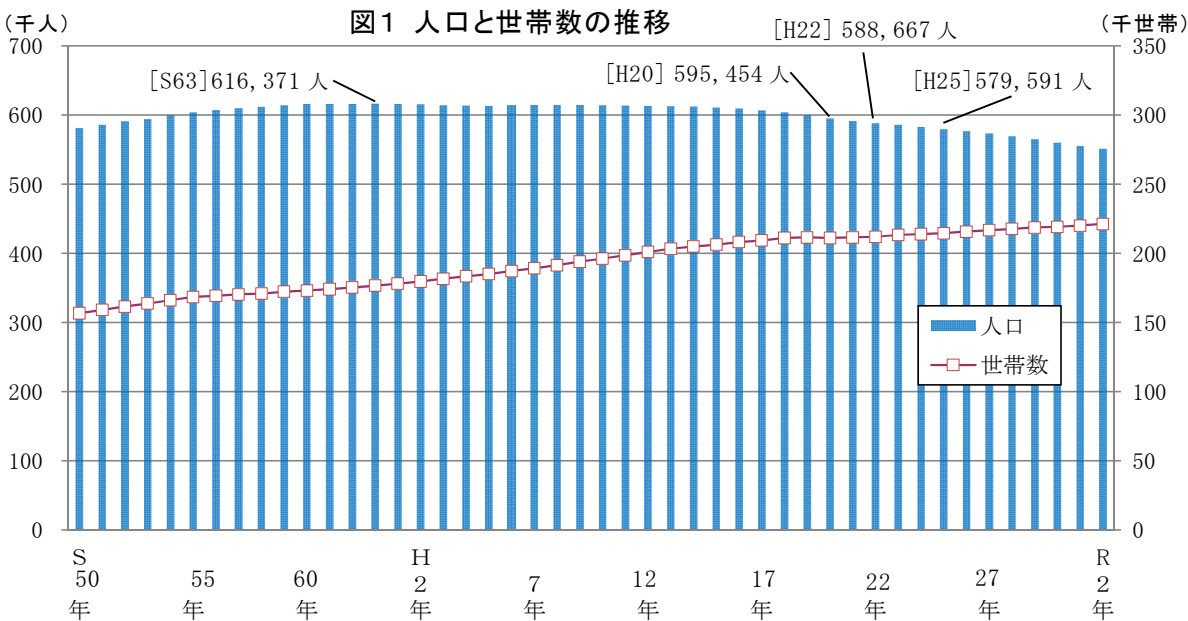
男女別人口をみると、男性263,656人、女性287,746人で、人口性比は91.6であった。

外国人の推計人口(国籍不詳を含む。以下同じ。)は6,994人(県の推計人口に占める割合は1.3%)で前年と比べ146人増加し、5年連続の増加となった。男女別に見ると、男性2,802人、女性4,192人で、人口性比は66.8であった。

世帯数は、221,443世帯で、この1年間で1,258世帯増加した。

昭和50年(156,826世帯)以降増加が続き、平成12年では20万世帯を超え、令和2年では過去最大となった。1世帯当たりの人員は2.49で減少が続いている。

(図1、表1、表2、統計表第1表)



注1)各年の人口は10月1日現在の人口による。

注2)表示年は国勢調査実施年で国勢調査人口、その他の年は国勢調査を基準として推計した人口である。

表1 推計人口と世帯数(過去5年間の推移)

(単位:人、%、世帯)

年	人口			人口増減				人口性比	世帯数	1世帯当たりの人員
	総数	男	女	総数	男	女	率			
H28年	5,722	2,238	3,484	274	113	161	5.03	64.2	217,890	2.61
	569,579	271,898	297,681	-3,862	-1,807	-2,055	-0.67	91.3		
H29年	5,985	2,354	3,631	263	116	147	4.60	64.8	218,731	2.58
	565,233	270,049	295,184	-4,346	-1,849	-2,497	-0.76	91.5		
H30年	6,346	2,552	3,794	361	198	163	6.03	67.3	219,288	2.56
	560,517	267,885	292,632	-4,716	-2,164	-2,552	-0.83	91.5		
R元年	6,848	2,749	4,099	502	197	305	7.91	67.1	220,185	2.52
	555,663	265,710	289,953	-4,854	-2,175	-2,679	-0.87	91.6		
R2年	6,994	2,802	4,192	146	53	93	2.13	66.8	221,443	2.49
	551,402	263,656	287,746	-4,261	-2,054	-2,207	-0.77	91.6		

注1) 上段は外国人で内数

注2) 外国人は国籍不詳を含む。

2 年齢3区分別人口

年齢3区分別の構成割合は、年少人口は12.5%、生産年齢人口は54.9%で過去最低、老年人口が32.5%で過去最高となった。

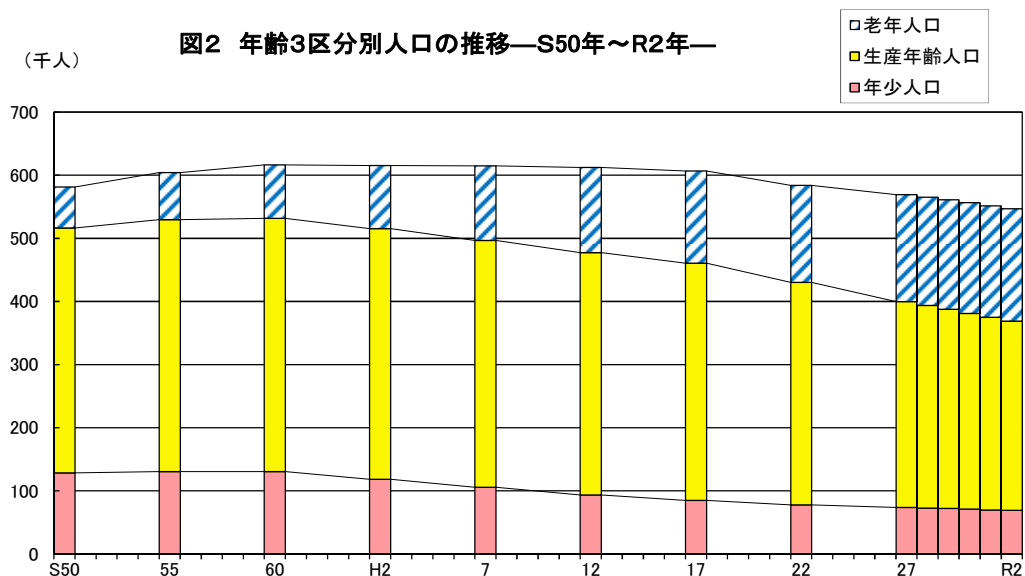
年齢3区分別にみると、年少人口は68,595人で前年（令和元年10月1日現在）と比べ974人減少、生産年齢人口は300,465人で4,767人減少、老年人口は177,979人で1,480人増加した。（年齢3区分人口に年齢不詳は含まない。以下同じ。）

昭和50年以降の推移をみると、年少人口は昭和60年の130,668人をピークに減少となり、平成12年では10万人を割り減少が続いている。生産年齢人口は昭和60年の400,717人まで増加を続けていたが、それ以降減少が続いている。老年人口は増加が続いており、平成7年に10万人台、平成28年からは17万人台となった。

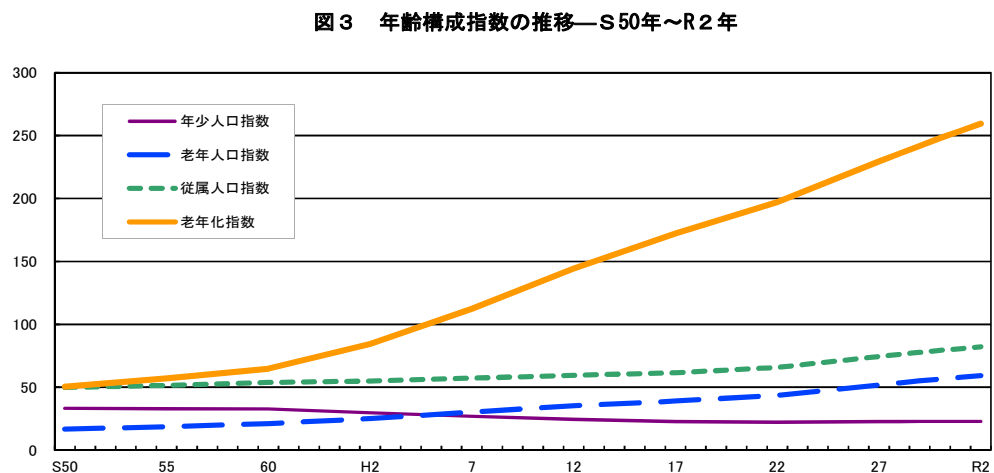
人口構成割合を前年と比べると、年少人口は12.5%で0.1ポイント低下し、生産年齢人口は54.9%で0.5ポイント低下し、ともに過去最低となった。老年人口は32.5%で0.5ポイント上昇し、過去最高となった。

年齢構成指数を前年と比べると、生産年齢人口の扶養負担程度を表す従属人口指数（年少人口と老年人口の合計の生産年齢人口に対する比率）は82.1で1.5ポイント上昇、年少人口指数（年少人口の生産年齢人口に対する比率）は22.8で増減なし、老年人口指数（老年人口の生産年齢人口に対する比率）は59.2で1.4ポイント上昇した。また、老年化指数（老年人口の年少人口に対する比率）は259.5で5.8ポイント上昇し、老年人口指数、従属人口指数及び老年化指数は過去最高となった。

（図2、図3、図4-1、図4-2、表2、表3、統計表第1表）



注) S50年からH27年までは国勢調査値、H28年以降はH27年国勢調査を基準として推計したものである。



注) S50年からH27年までは国勢調査値、H28年以降はH27年国勢調査を基準として推計したものである。

図4-1 人口ピラミッド

県全体 551,402人

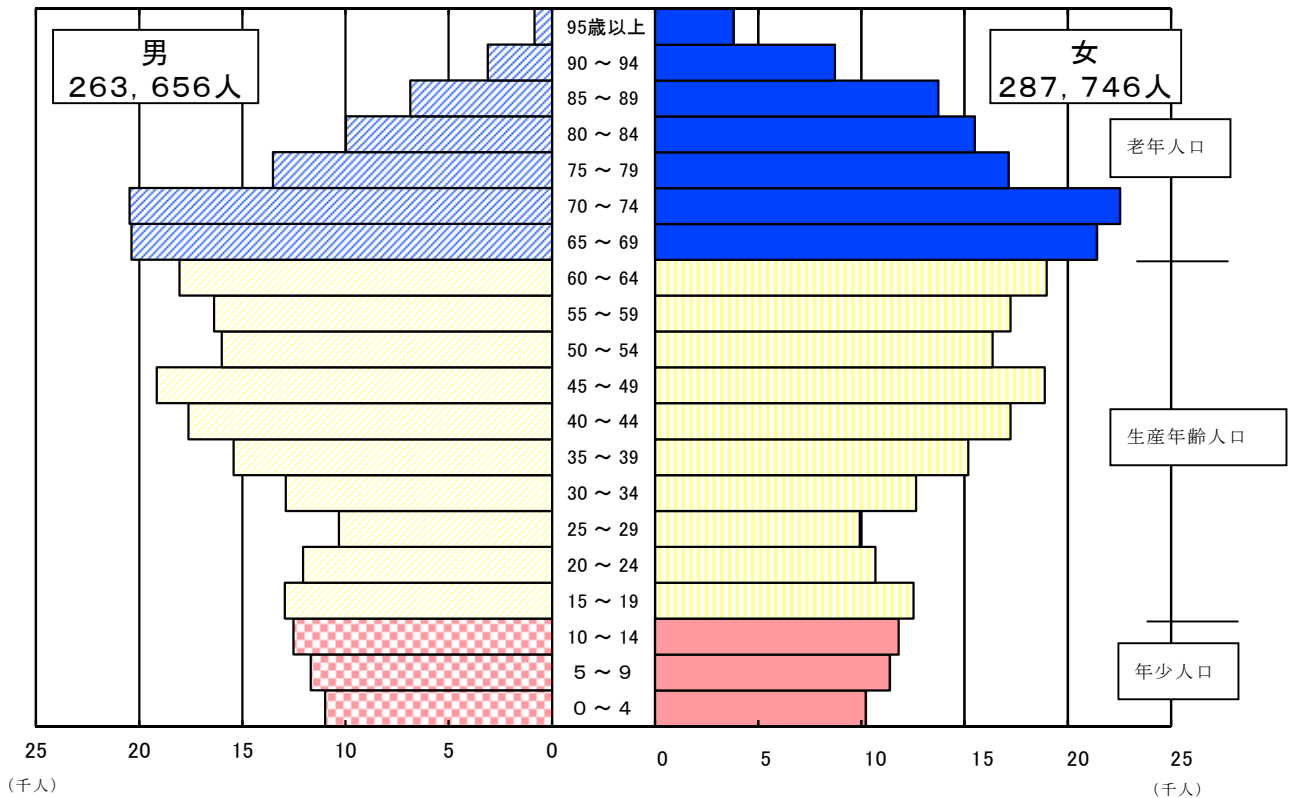
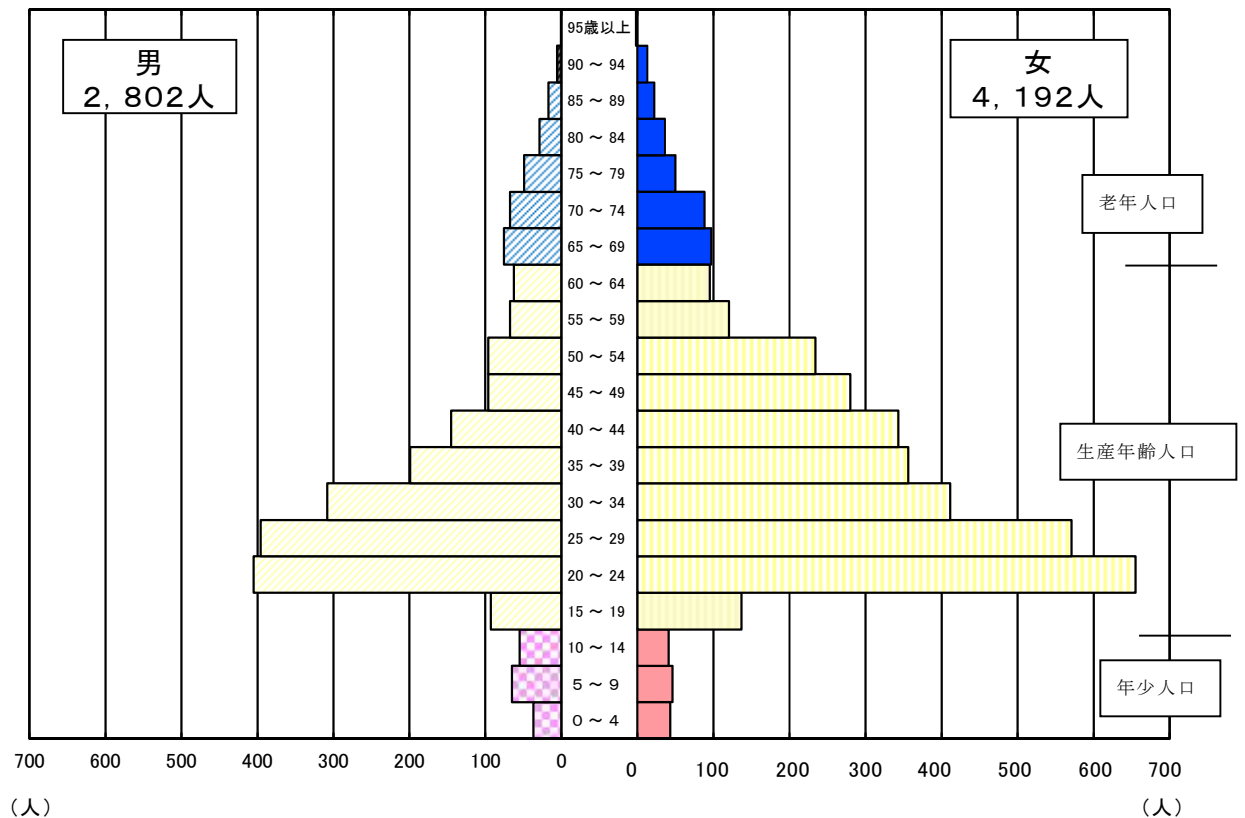


図4-2 人口ピラミッド(外国人)

県全体 6,994人



注) 外国人は国籍不詳を含む

表2 年齢5歳階級別人口

(単位:人)

年齢	総人口				うち外国人人口			
	総数	男	女	人口性比	総数	男	女	人口性比
総数	551,402	263,656	287,746	91.6	6,994	2,802	4,192	66.8
0～4歳	21,201	10,991	10,210	107.6	80	37	43	86.0
5～9	23,058	11,681	11,377	102.7	111	65	46	141.3
10～14	24,336	12,534	11,802	106.2	96	55	41	134.1
15～19	25,466	12,943	12,523	103.4	230	93	137	67.9
20～24	22,738	12,053	10,685	112.8	1,060	405	655	61.8
25～29	20,238	10,318	9,920	104.0	967	396	571	69.4
30～34	25,545	12,886	12,659	101.8	719	308	411	74.9
35～39	30,611	15,423	15,188	101.5	555	199	356	55.9
40～44	34,845	17,617	17,228	102.3	488	145	343	42.3
45～49	38,036	19,155	18,881	101.5	376	96	280	34.3
50～54	32,365	16,005	16,360	97.8	330	96	234	41.0
55～59	33,586	16,366	17,220	95.0	188	68	120	56.7
60～64	37,035	18,043	18,992	95.0	158	63	95	66.3
65～69	41,783	20,371	21,412	95.1	173	76	97	78.4
70～74	43,012	20,473	22,539	90.8	156	68	88	77.3
75～79	30,654	13,523	17,131	78.9	99	49	50	98.0
80～84	25,465	9,971	15,494	64.4	65	29	36	80.6
85～89	20,582	6,858	13,724	50.0	39	17	22	77.3
90～94	11,836	3,111	8,725	35.7	19	6	13	46.2
95歳以上	4,647	839	3,808	22.0	-1	1	-2	-
不詳	4,363	2,495	1,868	133.6	1,086	530	556	95.3

注1) 外国人は国籍不詳を含む。

注2) 各歳別に年齢不詳は含まない。

注3) 人口は、国勢調査（常住人口）の結果に各市町村から報告された人口移動数を加減して算出したものである。したがって、年齢階級によってはマイナスとなる場合がある。

表3 年齢3区分別人口

(単位:人、%)

年齢	総人口		うち外国人人口	
	年齢3区分別人口	年齢3区分別人口割合	年齢3区分別人口	年齢3区分別人口割合
年少人口(0～14歳)	68,595	12.5	287	4.9
生産年齢人口(15～64歳)	300,465	54.9	5,071	85.8
老年人口(65歳以上)	177,979	32.5	550	9.3
うち75歳以上	93,184	17.0	221	3.7

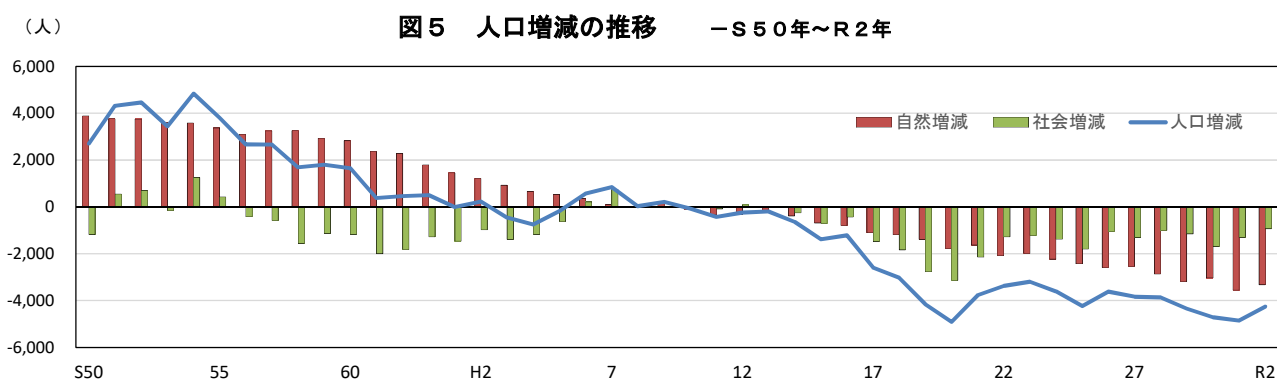
注) 割合は、小数第二位以下を四捨五入しているため、合計しても100%にならない場合がある。

Ⅱ 人口動態

1 概況

1年間の人口動態は、自然増減、社会増減ともに減少であったが、減少幅は前年に比べ593人縮小した。

令和2年（令和元年10月～令和2年9月）の1年間の人口動態をみると、自然増減は3,327人減、社会増減は934人減、合計4,261人の減少であったが、減少幅は前年と比べると593人縮小した。（図5、統計表第3表）



2 自然動態

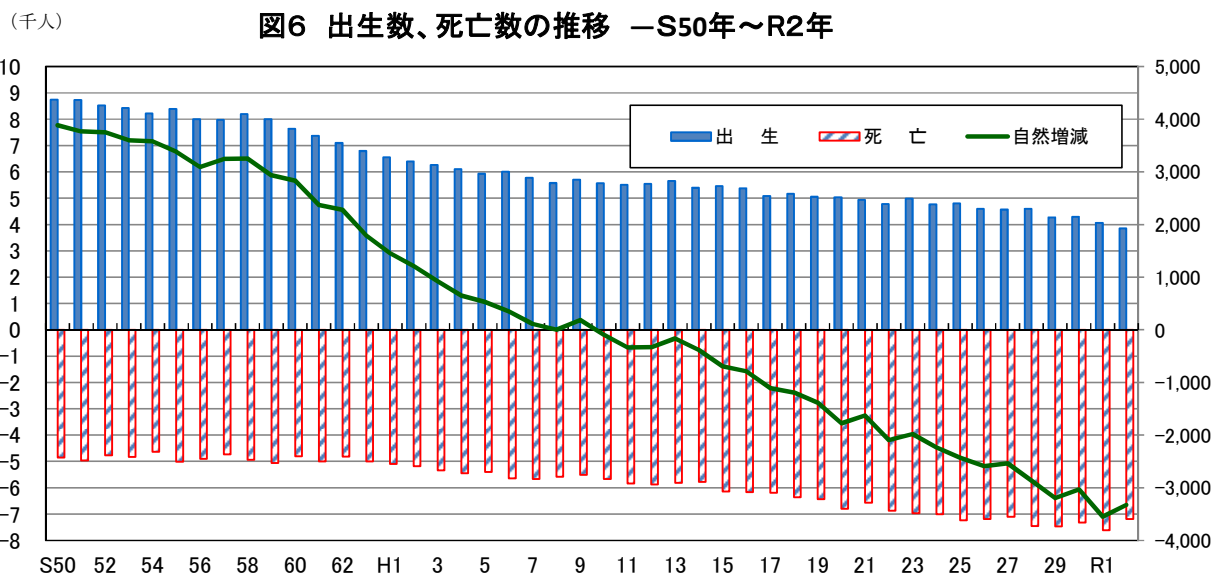
（1）自然動態の推移

自然増減は、3,327人減少し、23年連続の減少となった。

出生数は昭和50年（8,735人）以降減少傾向となり、昭和63年からは6,000人台、平成5年からは5,000人台、平成21年からは4,000人台となり、令和2年は3,852人で前年と比べると213人減少し、昭和50年以降初めて3,000人台となった。

死亡数は、平成2年ごろまでは5,000人前後を推移していたが、それ以降は増加傾向となっている。平成15年からは6,000人台、平成25年からは7,000人台となり、令和2年は7,179人で前年と比べると436人減少した。

自然増減は3,327人の減少で前年と比べ減少数は223人縮小し、23年連続の減少となった。（図6、統計表第3表）



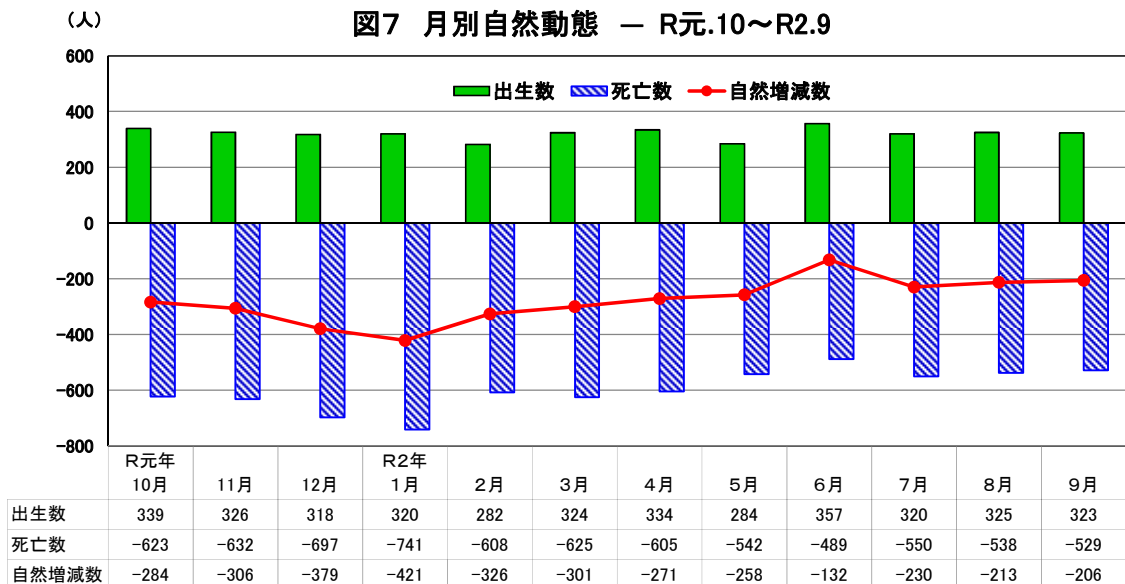
(2) 月別自然動態

自然増減はすべての月で減少となり、1月の減少数が最も多い。

月別にみると、出生数は令和2年6月が357人（出生総数に占める割合9.3%）と最も多く、次いで令和元年10月が339人（同8.8%）、4月が334人（同8.7%）であった。

死亡数は令和2年1月が741人（死亡総数に占める割合10.3%）と最も多く、次いで令和元年12月が697人（同9.7%）、令和元年11月が632人（同8.8%）であった。

自然増減数はすべての月で減少となり、減少数は令和2年1月が421人と最も多かった。（図7、統計表第4表）



3 社会動態

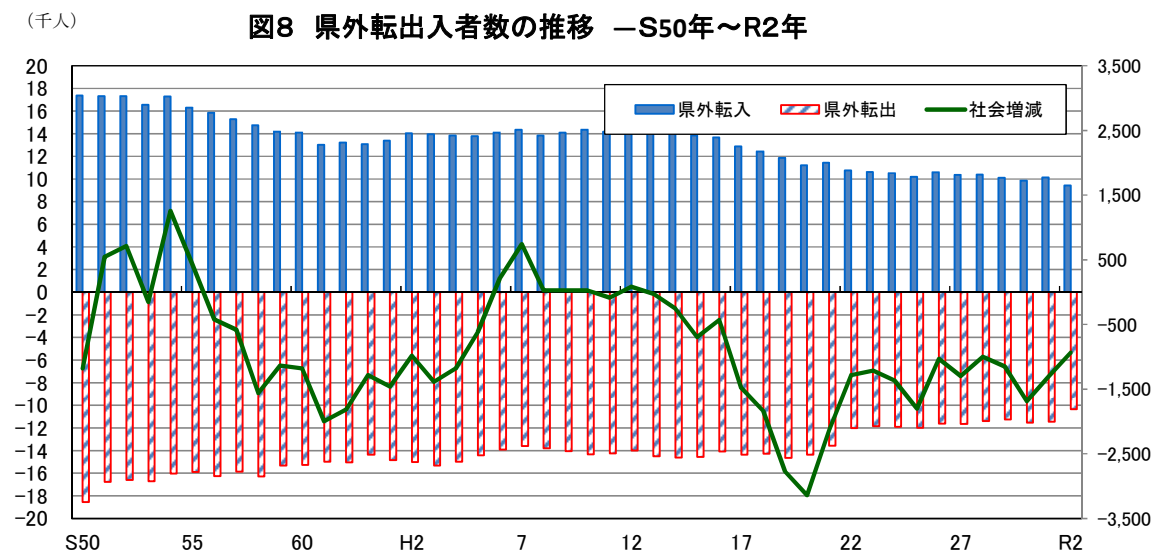
(1) 社会動態の推移

社会増減は、934人減少し、20年連続の減少となった。

令和2年（令和元年10月～令和2年9月）の県外転入者は9,423人、県外転出者は10,357人で社会増減は934人減少した。県内の市町村間を移動した者（県内移動者）は5,891人で実移動者総数は25,671人であった。

前年に比べると、県外転入者が723人減少、県外転出者が1,093人減少し、社会増減の減少数が370人縮小した。また、県内移動者が314人減少し、実移動者総数が2,130人減少した。

社会動態の推移をみると、昭和50年以降転入・転出とも減少傾向となり、社会増減数は平成13年以降20年連続で減少した。（図8、統計表第3表、統計表第7表）



注) 各年の数値は前年10月～当年9月の集計による。

(2) 月別社会動態

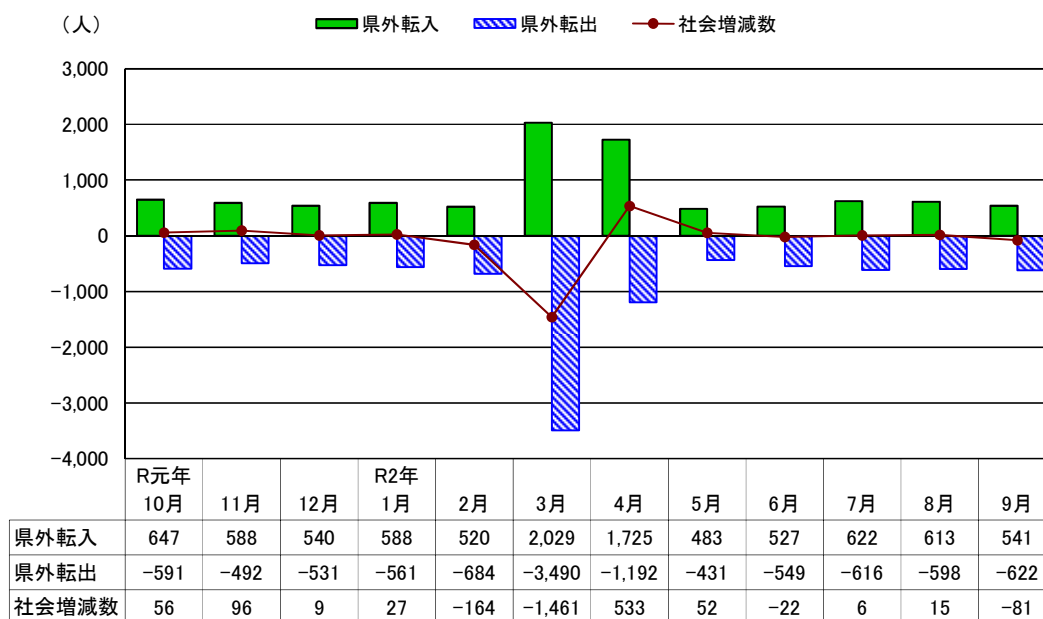
3月及び4月の2か月間で、年間実移動者総数の41.6%を占める。

月別にみると、県外転入者は3月が2,029人（県外転入者総数に占める割合21.5%）と最も多く、次いで4月が1,725人（同18.3%）、10月が647人（同6.9%）であった。

県外転出者は3月が3,490人（県外転出者総数に占める割合33.7%）と最も多く、次いで4月が1,192人（同11.5%）、2月が684人（同6.6%）であった。

この結果、4月が533人増加し、3月が1,461人減少し、この2か月間で年間実移動者総数の41.6%を占めている。（図9、統計表第6表）

図9 月別県外転出入者数 — R元.10月～R2.9月



(3) 都道府県別（外国を含む）、男女別社会動態

県外転入者数は島根県が1,330人、県外転出者数は大阪府が1,225人と最も多い。

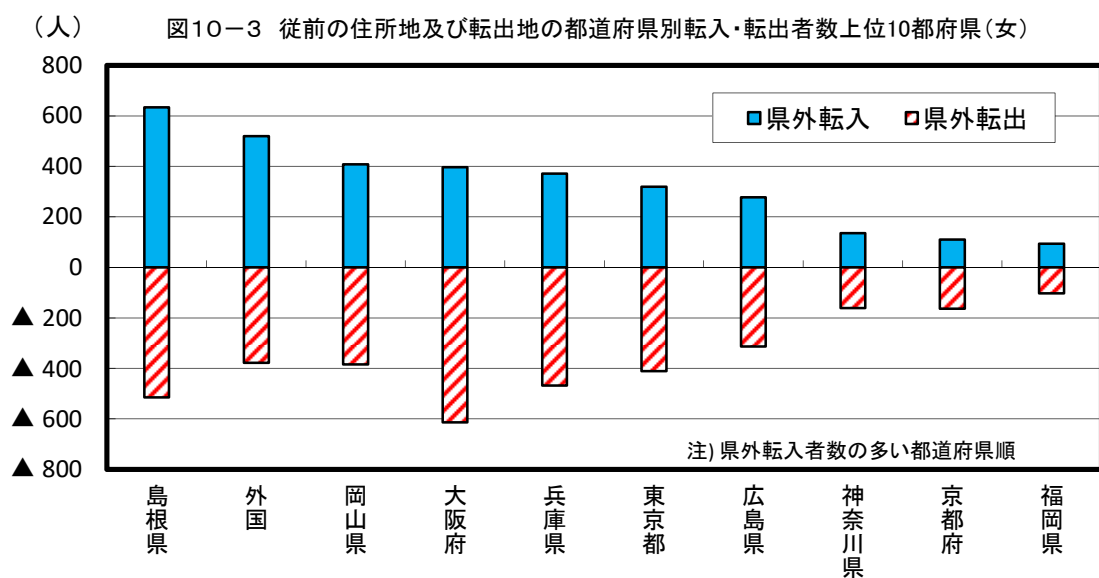
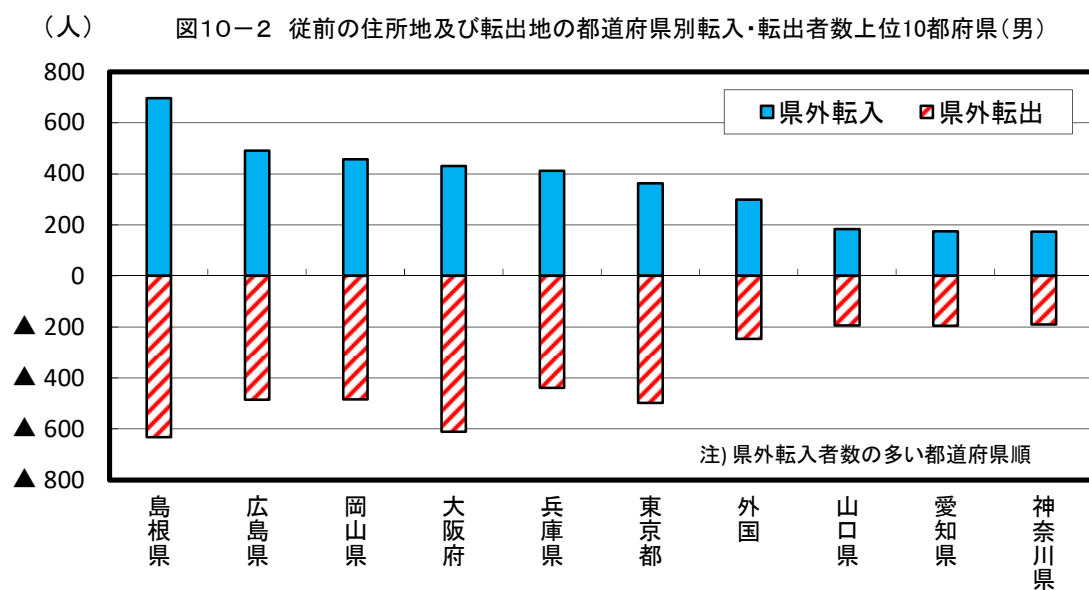
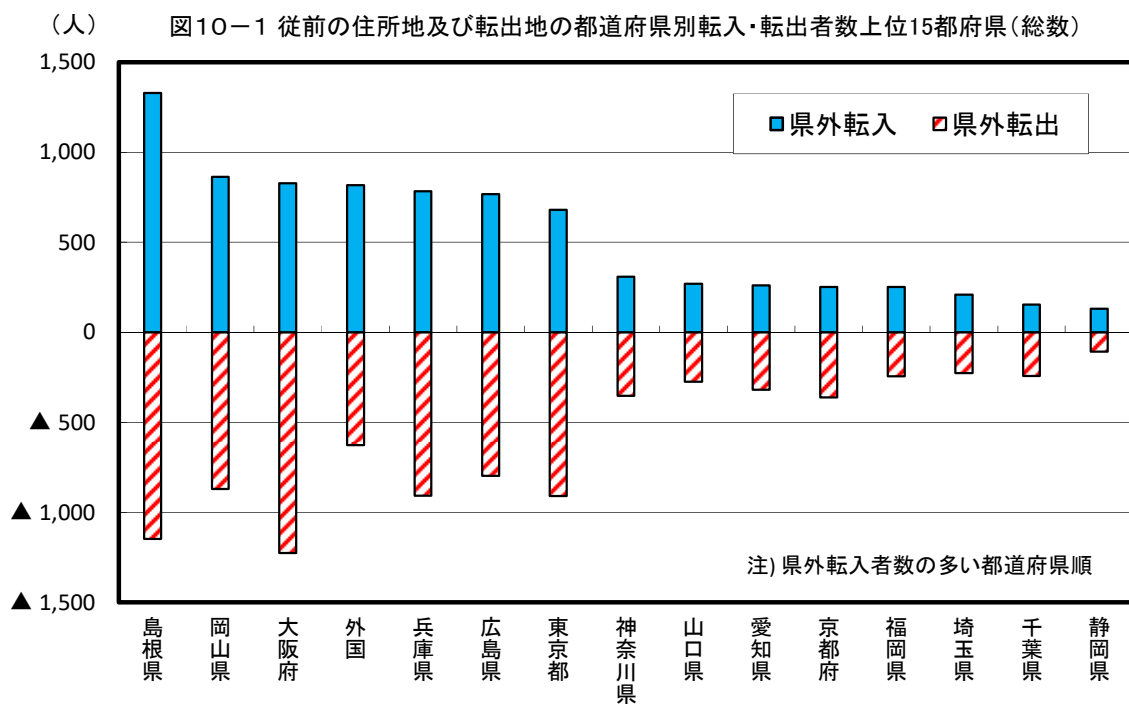
都道府県別（外国を含む）にみると、県外転入者は島根県が1,330人（男性697人、女性633人）と最も多く、次いで岡山県が865人（男性457人、女性408人）、大阪府が828人（男性431人、女性397人）であった。

県外転出者は、大阪府が1,225人（男性611人、女性614人）と最も多く、次いで島根県が1,147人（男性633人、女性514人）、東京都が909人（男性498人、女性411人）であった。

また、男女別にみると、男性の県外転入者は島根県が697人と最も多く、次いで広島県が491人、岡山県が457人であり、県外転出者は、島根県が633人と最も多く、次いで大阪府が611人、東京都が498人であった。

女性の県外転入者は島根県が633人と最も多く、次いで外国が519人、岡山県が408人であり、県外転出者は、大阪府が614人と最も多く、次いで島根県が514人、兵庫県が468人であった。

（図10-1、図10-2、図10-3、統計表第14表）



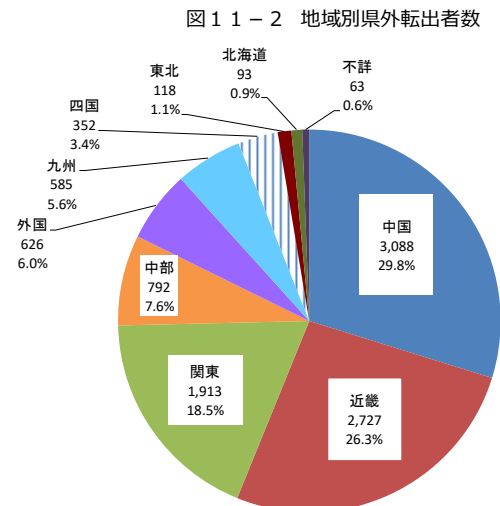
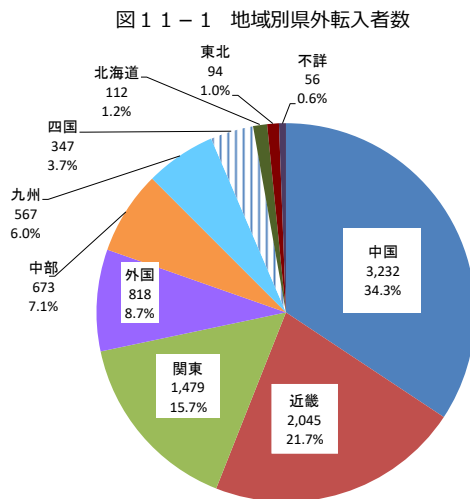
(4) ブロック別の県外転入・転出

ブロック別の県外転入・転出者数とも中国ブロックが最多で、次いで近畿ブロック

ブロック別にみると、県外転入者は中国ブロックが 3,232 人（男性 1,828 人、女性 1,404 人）で最も多く、次いで近畿ブロックが 2,045 人（男性 1,085 人、女性 960 人）、関東が 1,479 人（男性 841 人、女性 638 人）であった。

県外転出者は、中国ブロックが 3,088 人（男性 1,796 人、女性 1,292 人）で最も多く、次いで近畿ブロックが 2,727 人（男性 1,370 人、女性 1,357 人）、関東ブロック 1,913 人（男性 1,082 人、女性 831 人）であった。

(図11-1、図11-2)



注) 全国地域区分別の構成都道府県は、以下のとおり。

北海道: 北海道
 東北: 青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
 関東: 茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
 中部: 新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知、三重
 近畿: 滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
 中国: 鳥根、岡山、広島、山口
 四国: 徳島、香川、愛媛、高知
 九州: 福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

(5) 都道府県別（外国を含む）転入・転出超過数

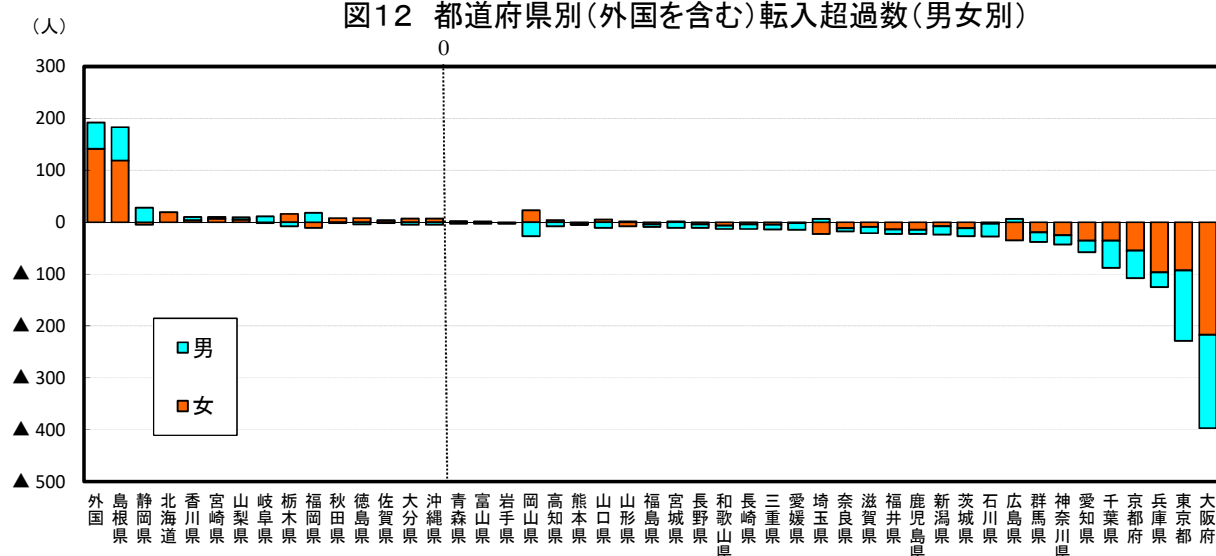
転入超過数は外国が192人、転出超過数は大阪府が397人と最も多い。

転入超過数は、外国が 192 人（男性 51 人、女性 141 人）と最も多く、次いで島根県が 183 人（男性 64 人、女性 119 人）、静岡県が 23 人（男性 28 人、女性 -5 人）であった。

転出超過数は、大阪府が 397 人（男性 180 人、女性 217 人）と最も多く、次いで東京都が 229 人（男性 136 人、女性 93 人）、兵庫県が 125 人（男性 28 人、女性 97 人）であった。

(図12、統計表第14表)

図12 都道府県別(外国を含む)転入超過数(男女別)



(6) 年齢5歳階級別、男女別社会動態

0～4歳が最も増加し、20～24歳が最も減少

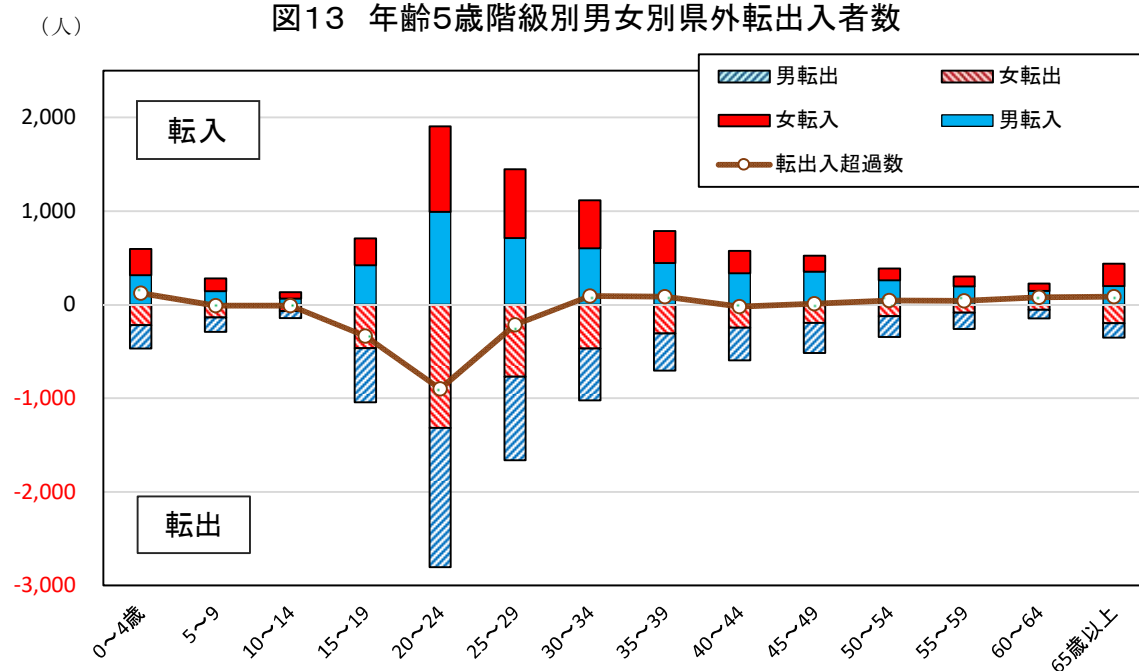
年齢5歳階級別にみると、県外転入者は男女とも20～24歳が最も多く(男性992人、男性の県外転入者総数に占める割合が19.1%、女性914人、女性の県外転入者総数に占める割合が21.6%)、次いで男女とも25～29歳(男性712人、同13.7%、女性734人、同17.3%)であった。

県外転出者は男女とも20～24歳が最も多く(男性1,488人、同26.1%、女性1,318人、同28.3%)、次いで男女とも25～29歳(男性892人、同15.7%、女性771人、同16.5%)であった。

県外転入転出により、0～4歳が124人(男性64人、女性60人)と最も増加、20～24歳が900人(男性496人、女性404人)と最も減少し、年間実移動者総数をみると、20～34歳が全体の49.1%を占めている。

(図13、統計表第7表、第15表)

図13 年齢5歳階級別男女別県外転出入者数



Ⅲ 市町村別推計人口

1 市町村別の推計人口

推計人口が最も多いのは鳥取市の 187,684 人、最も少ないのは江府町の 2,627 人

市郡別にみると、市部の推計人口は 414,033 人（男性 198,633 人、女性 215,400 人、県人口に占める割合 75.1%）で、郡部の推計人口は 137,369 人（男性 65,023 人、女性 72,346 人、同 24.9%）であった。

市部で推計人口が最も多いのは、鳥取市の 187,684 人（男性 91,288 人、女性 96,396 人、同 34.0%）で、次いで米子市の 147,268 人（男性 69,789 人、女性 77,479 人、同 26.7%）であった。

郡部で推計人口が最も多いのは、琴浦町の 16,278 人（男性 7,614 人、女性 8,664 人、同 3.0%）で、次いで湯梨浜町の 15,987 人（男性 7,620 人、女性 8,367 人、同 2.9%）であった。

また、最も少ないのは、江府町の 2,627 人（男性 1,215 人、女性 1,412 人、同 0.5%）で、次いで日野町の 2,837 人（男性 1,288 人、女性 1,549 人、同 0.5%）であった。

過去 5 年間（平成 28 年～令和 2 年）の市町村別の推計人口の推移をみると、日吉津村を除く 18 市町で減少している。

日吉津村は平成 28 年以降毎年増加していたが、令和元年は減少に転じたものの、令和 2 年で再び増加となった。

（表 4、統計表第 8 表、第 8-1 表）

表 4 市町村別年齢3区分別人口と世帯数（過去 5 年間の推移）

（単位：人、世帯）

区分	総人口					年齢3区分別人口			世帯数	1世帯当たりの人員
	H28年	H29年	H30年	R元年	R2年	年少人口	生産年齢人口	老年人口		
市計	424,203	421,732	418,935	416,187	414,033	52,806	232,002	124,971	171,949	2.41
郡計	145,376	143,501	141,582	139,476	137,369	15,789	68,463	53,008	49,494	2.78
東部地区	230,928	229,320	227,195	225,081	223,434	27,627	124,644	69,243	91,028	2.45
中部地区	103,203	102,141	101,045	99,935	98,796	12,436	51,371	34,754	37,419	2.64
西部地区	235,448	233,772	232,277	230,647	229,172	28,532	124,450	73,982	92,996	2.46
鳥取市	192,658	191,601	190,090	188,740	187,684	23,808	106,742	55,224	77,885	2.41
米子市	149,178	148,720	148,262	147,667	147,268	19,268	82,978	42,914	62,142	2.37
倉吉市	48,558	47,980	47,439	46,943	46,480	5,776	24,417	16,129	18,654	2.49
境港市	33,809	33,431	33,144	32,837	32,601	3,954	17,865	10,704	13,268	2.46
岩美町	11,343	11,263	11,108	10,919	10,741	1,155	5,539	4,046	4,031	2.66
若桜町	3,209	3,130	3,055	2,941	2,869	192	1,281	1,396	1,149	2.50
智頭町	7,031	6,905	6,689	6,520	6,393	622	2,951	2,819	2,492	2.57
八頭町	16,687	16,421	16,253	15,961	15,747	1,850	8,131	5,758	5,471	2.88
三朝町	6,393	6,311	6,205	6,108	6,006	680	2,904	2,422	2,257	2.66
湯梨浜町	16,347	16,298	16,238	16,108	15,987	2,258	8,535	5,191	5,737	2.79
琴浦町	17,187	17,010	16,757	16,525	16,278	1,956	8,252	5,996	5,853	2.78
北栄町	14,718	14,542	14,406	14,251	14,045	1,766	7,263	5,016	4,918	2.86
日吉津村	3,459	3,499	3,573	3,497	3,503	521	1,969	1,003	1,237	2.83
大山町	16,308	16,024	15,846	15,690	15,404	1,709	7,415	6,275	5,283	2.92
南部町	10,874	10,767	10,615	10,479	10,311	1,157	5,230	3,921	3,535	2.92
伯耆町	11,045	10,881	10,737	10,667	10,539	1,264	5,035	4,236	3,648	2.89
日南町	4,637	4,458	4,316	4,192	4,082	296	1,628	2,158	1,754	2.33
日野町	3,188	3,101	2,994	2,906	2,837	180	1,205	1,452	1,188	2.39
江府町	2,950	2,891	2,790	2,712	2,627	183	1,125	1,319	941	2.79

2 年齢3区分別人口

(1) 年少人口

前年と比べ年少人口は日吉津村で増加、年少人口割合は5町で上昇

年少人口は鳥取市が 23,808 人と最も多く、次いで米子市が 19,268 人であった。前年と比べると、日吉津村で増加し、若桜町で増減なし、その他の市町で減少した。

年少人口割合は日吉津村が 14.9%と最も高く、次いで湯梨浜町が 14.1%であった。前年と比べると、若桜町、八頭町、日吉津村、伯耆町及び日南町で上昇し、米子市、倉吉市、境港市、岩美町及び北栄町で同水準、鳥取市など9市町で低下した。

(図14、統計表第10表、10-1表、10-2表、10-3表)

(2) 生産年齢人口

前年と比べ生産年齢人口はすべての市町村で減少、生産年齢人口はすべての市町村で低下

生産年齢人口は鳥取市が 106,742 人と最も多く、次いで米子市が 82,978 人であった。前年と比べると、すべての市町村で減少した。

生産年齢人口割合は鳥取市が 57.5%と最も高く、次いで米子市が 57.2%であった。前年と比べると、すべての市町村で低下した。

(図14、統計表第10表、10-1表、10-2表、10-3表)

(3) 老年人口

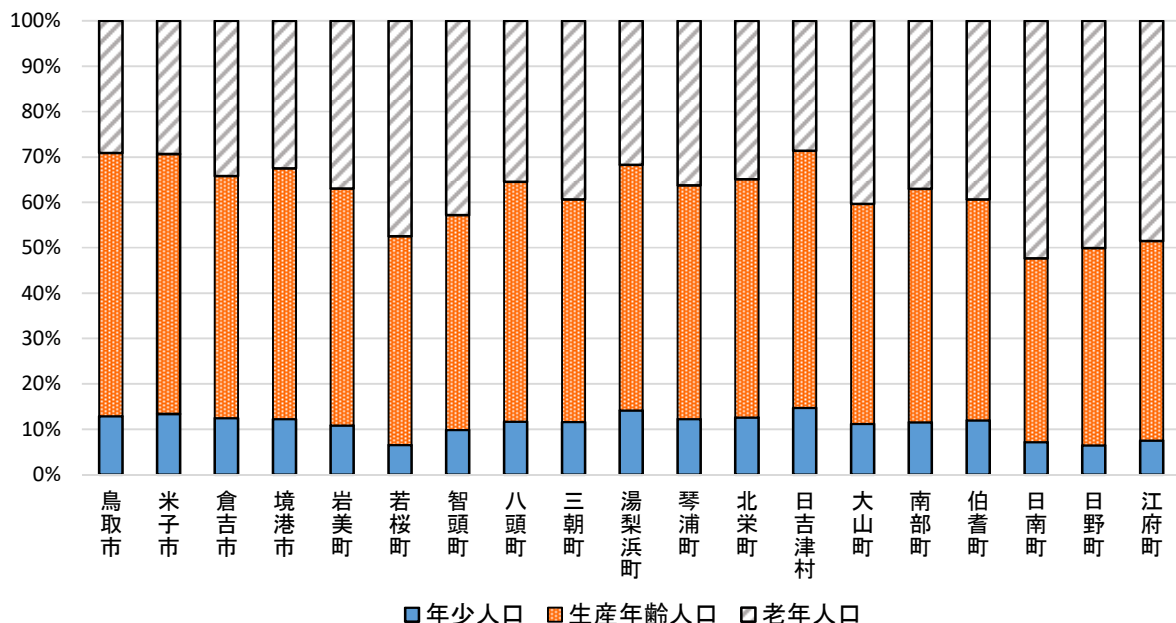
前年と比べ老年人口は15市町村で増加、老年人口割合はすべての市町村で上昇

老年人口は鳥取市が 55,224 人と最も多く、次いで米子市が 42,914 人であった。前年と比べると、鳥取市など15市町村で増加し、若桜町で増減なし、大山町など3町で減少した。

老年人口割合は日南町が 52.9%と最も高く、次いで日野町が 51.2%であった。前年と比べると、全市町村で上昇した。

(図14、統計表第10表、10-1表、10-2表、10-3表)

図14 市町村別年齢3区分別人口割合



Ⅳ 市町村人口動態

1 人口増減

日吉津村を除くすべての市町で人口が減少

令和２年（令和元年１０月～令和２年９月）の１年間の市町村別の人口増減をみると、増加したのは日吉津村の６人（自然減少７人、社会増加１３人）で、他の１８市町は減少し、最も減少したのは鳥取市の１,０５６人（自然減少７６２人、社会減少２９４人）で、次いで倉吉市が４６３人（自然減少３００人、社会減少１６３人）、米子市が３９９人（自然減少５９６人、社会増加１９７人）、大山町が２８６人（自然減少２２９人、社会減少５７人）であった。

また、増減率をみると、増加したのは日吉津村の０.１７％で、他の１８市町は減少し、最も減少したのは江府町の３.１３％で、次いで日南町が２.６２％、若桜町が２.４５％、日野町が２.３７％であった。（表５、統計表第８表）

表５ 市町村別人口増減

（単位：人）

	自然増減			社会増減			人口増減数
	出生数	死亡数	増減数	転入者数	転出者数	増減数	
県計	3,852	7,179	-3,327	15,314	16,248	-934	-4,261
鳥取市	1,341	2,103	-762	4,470	4,764	-294	-1,056
米子市	1,175	1,771	-596	4,864	4,667	197	-399
倉吉市	336	636	-300	1,273	1,436	-163	-463
境港市	201	422	-221	1,223	1,238	-15	-236
岩美町	60	200	-140	283	321	-38	-178
若桜町	9	64	-55	71	88	-17	-72
智頭町	28	108	-80	161	208	-47	-127
八頭町	109	227	-118	374	470	-96	-214
三朝町	26	87	-61	133	174	-41	-102
湯梨浜町	118	227	-109	491	503	-12	-121
琴浦町	95	245	-150	376	473	-97	-247
北栄町	92	219	-127	339	418	-79	-206
日吉津村	34	41	-7	158	145	13	6
大山町	77	306	-229	370	427	-57	-286
南部町	48	143	-95	213	286	-73	-168
伯耆町	71	158	-87	290	331	-41	-128
日南町	15	109	-94	96	112	-16	-110
日野町	8	58	-50	79	98	-19	-69
江府町	9	55	-46	50	89	-39	-85

2 自然動態

(1) 市町村別自然動態

自然増減はすべての市町村で減少

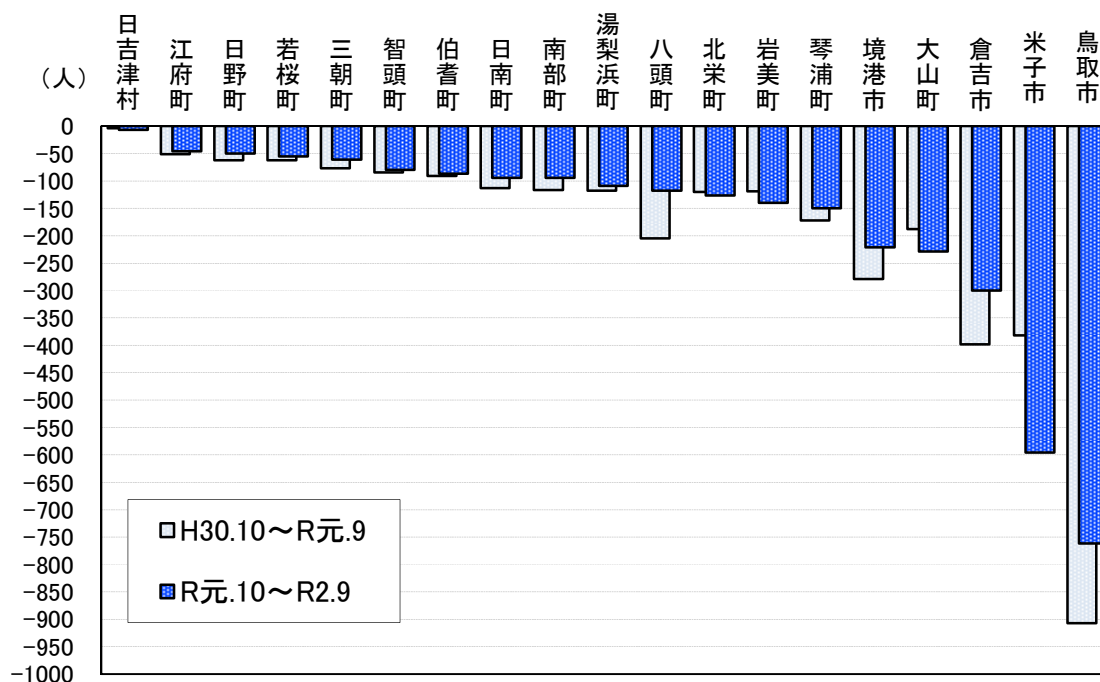
自然増減を市町村別にみると、すべての市町村で減少した。

最も多く減少したのは鳥取市の 762 人（出生数 1,341 人、死亡数 2,103 人）で、次いで米子市が 596 人（出生数 1,175 人、死亡数 1,771 人）であった。

自然増減率（対 1,000 人比）をみると、すべての市町村で減少し、最も減少したのは日南町の 22.4% で、次いで若桜町の 18.7% であった。

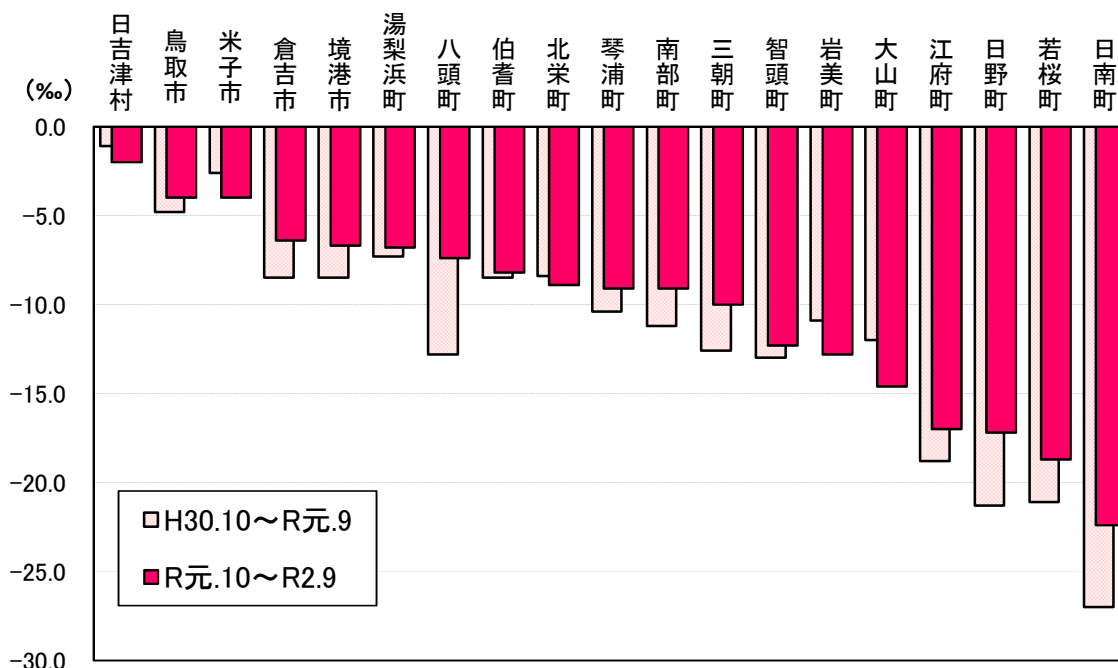
（図15-1、図15-2、統計表第11表）

図15-1 市町村別自然増減数



※各年の数値は前年 10 月～当年 9 月の集計による。

図15-2 市町村別自然増減率



※各年の数値は前年 10 月～当年 9 月の集計による。

(2) 月別自然動態

出生数は9月の鳥取市の128人、死亡数は12月及び1月の鳥取市の205人が最も多い。

月別にみると、出生数は9月の鳥取市の128人（総出生数に占める割合3.3%）が最も多く、次いで10月の鳥取市の123人（同3.2%）、4月の鳥取市の121人（同3.1%）であった。

死亡数は12月及び1月の鳥取市の205人（総死亡数に占める割合2.9%）が最も多く、次いで11月の鳥取市の192人（同2.7%）であった。

（表6）

(3) 男女別自然動態

男女の出生数・死亡数とも鳥取市が最も多かった。

市町村別の男女別をみると、男性の出生数は鳥取市が690人と最も多く、次いで米子市が594人、倉吉市が169人、境港市が99人であった。死亡数は、鳥取市が1,045人と最も多く、次いで米子市が885人、倉吉市が302人、境港市が198人であった。

女性の出生数は鳥取市が651人と最も多く、次いで米子市が581人、倉吉市が167人、境港市が102人であった。死亡数は、鳥取市が1,058人と最も多く、次いで米子市が886人、倉吉市が334人、境港市が224人であった。

また、最も少なかった出生数は、男性では日野町の1人、女性では若桜町及び日南町の5人、死亡数は、男性では日吉津村の20人、女性では日吉津村の21人であった。

（表6、統計表第11表）

表6 月別男女別自然動態 —R元年10月～R2年9月—

（単位：人）

			計	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
県 計	出生数	男	1,978	165	172	159	164	158	179	179	132	177	160	163	170
		女	1,874	174	154	159	156	124	145	155	152	180	160	162	153
		小計	3,852	339	326	318	320	282	324	334	284	357	320	325	323
	死亡数	男	3,520	306	322	339	396	302	284	272	267	235	274	265	258
		女	3,659	317	310	358	345	306	341	333	275	254	276	273	271
		小計	7,179	623	632	697	741	608	625	605	542	489	550	538	529
鳥取市	出生数	男	690	60	54	54	56	71	56	59	50	64	47	50	69
		女	651	63	55	43	58	37	46	62	58	56	53	61	59
		小計	1,341	123	109	97	114	108	102	121	108	120	100	111	128
	死亡数	男	1,045	85	98	99	117	92	90	79	97	66	69	70	83
		女	1,058	96	94	106	88	92	87	103	89	77	71	80	75
		小計	2,103	181	192	205	205	184	177	182	186	143	140	150	158
米子市	出生数	男	594	43	59	46	48	39	58	56	37	55	56	51	46
		女	581	58	41	50	40	43	48	52	47	55	47	48	52
		小計	1,175	101	100	96	88	82	106	108	84	110	103	99	98
	死亡数	男	885	79	70	89	100	76	76	69	50	59	85	60	72
		女	886	66	66	92	85	77	90	86	63	62	76	60	63
		小計	1,771	145	136	181	185	153	166	155	113	121	161	120	135
倉吉市	出生数	男	169	24	15	13	13	10	15	13	6	16	16	12	16
		女	167	11	16	20	16	11	15	9	9	22	13	12	13
		小計	336	35	31	33	29	21	30	22	15	38	29	24	29
	死亡数	男	302	24	23	27	42	31	25	21	17	18	26	26	22
		女	334	28	26	18	40	28	38	41	20	21	20	32	22
		小計	636	52	49	45	82	59	63	62	37	39	46	58	44
境港市	出生数	男	99	7	11	8	12	9	12	10	6	6	6	6	6
		女	102	5	5	12	11	5	10	7	12	8	11	10	6
		小計	201	12	16	20	23	14	22	17	18	14	17	16	12
	死亡数	男	198	13	17	16	27	14	12	17	19	16	13	17	17
		女	224	22	21	22	24	18	21	14	20	14	23	7	18
		小計	422	35	38	38	51	32	33	31	39	30	36	24	35

3 社会動態

(1) 市町村別社会動態

社会増減は米子市及び日吉津村を除く市町で減少

社会増減を市町村別にみると、米子市及び日吉津村を除く市町で減少した。

増加したのは米子市が 197 人（男性 17 人、女性 180 人）と最も増加し、次いで日吉津村が 13 人（男性 11 人、女性 2 人）であった。減少したのは鳥取市が 294 人（男性 131 人、女性 163 人）と最も減少し、次いで倉吉市が 163 人（男性 84 人、女性 79 人）であった。

社会増減率（対 1,000 人比）は日吉津村が 3.7‰増加、米子市が 1.3‰増加し、その他の市町は減少し、最も減少したのは江府町の 14.8‰で、次いで智頭町の 7.4‰であった。

（図16-1、図16-2、表7、統計表第12表、第15表）

図16-1 市町村別社会増減数

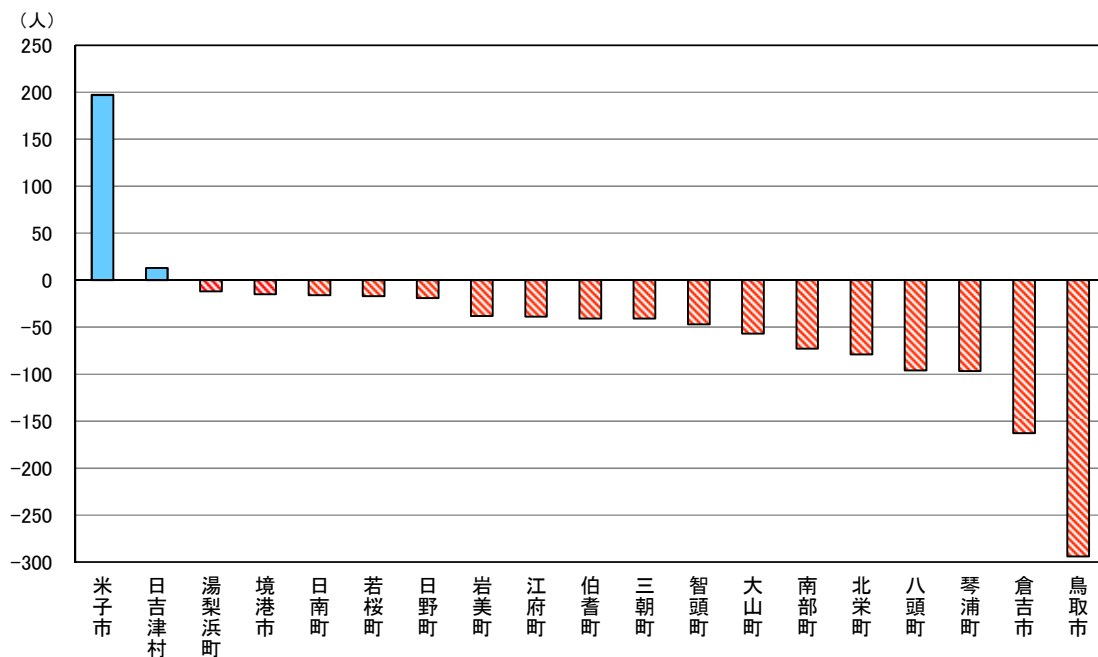


図16-2 市町村別社会増減率

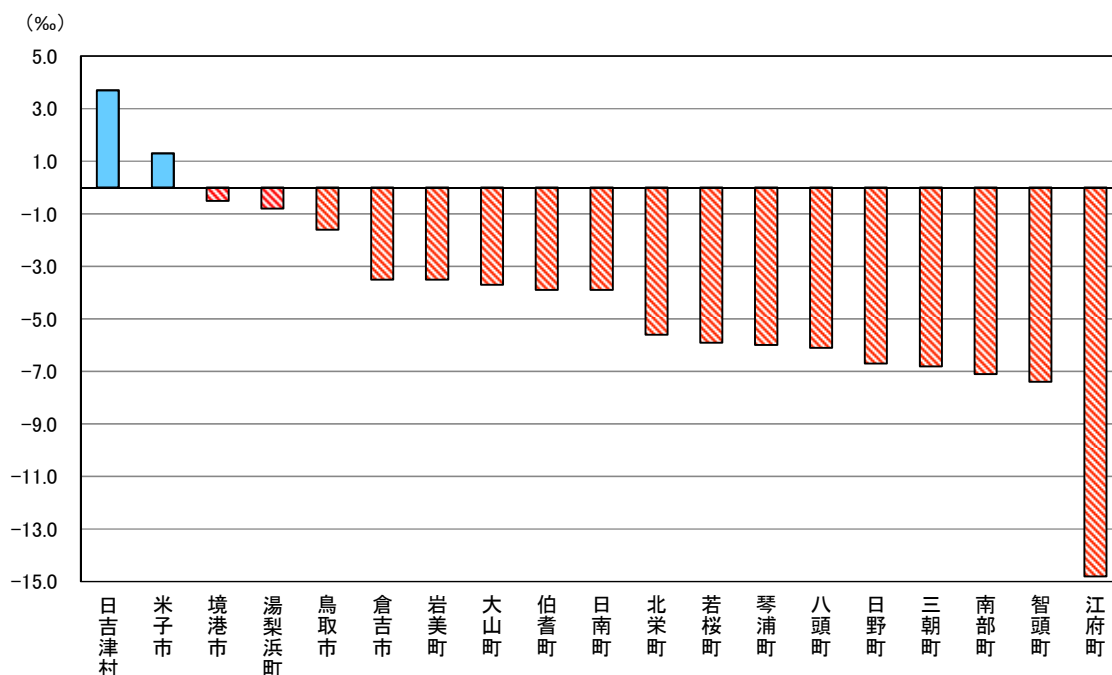


表 7 市町村別社会動態

(単位：人)

	県外			県内			社会増減数
	転入者数	転出者数	転入超過数	転入者数	転出者数	転入超過数	
県計	9,423	10,357	-934	5,891	5,891	0	-934
東部地区	3,582	4,056	-474	1,777	1,795	-18	-492
中部地区	1,144	1,456	-312	1,468	1,548	-80	-392
西部地区	4,697	4,845	-148	2,646	2,548	98	-50
鳥取市	3,180	3,587	-407	1,290	1,177	113	-294
米子市	3,240	3,356	-116	1,624	1,311	313	197
倉吉市	584	720	-136	689	716	-27	-163
境港市	889	879	10	334	359	-25	-15
岩美町	131	151	-20	152	170	-18	-38
若桜町	50	38	12	21	50	-29	-17
智頭町	91	86	5	70	122	-52	-47
八頭町	130	194	-64	244	276	-32	-96
三朝町	57	82	-25	76	92	-16	-41
湯梨浜町	161	250	-89	330	253	77	-12
琴浦町	228	238	-10	148	235	-87	-97
北栄町	114	166	-52	225	252	-27	-79
日吉津村	56	50	6	102	95	7	13
大山町	174	181	-7	196	246	-50	-57
南部町	115	120	-5	98	166	-68	-73
伯耆町	112	140	-28	178	191	-13	-41
日南町	56	47	9	40	65	-25	-16
日野町	36	36	0	43	62	-19	-19
江府町	19	36	-17	31	53	-22	-39

注 1) 転入超過数とは、転入者数から転出者数を差し引いた数。転入超過数がマイナス（－）の場合は、転出超過を示す。

注 2) 地域別の県内転入者数及び県内転出者数の数値については、地域内市町村間の移動者を含む。

(2) 県内移動

県内移動で最も多いのは鳥取市から米子市への 411 人

県内移動をみると、鳥取市から米子市への 411 人（男性 215 人、女性 196 人）が最も多く、次いで米子市から鳥取市への 360 人（男性 207 人、女性 153 人）であった。

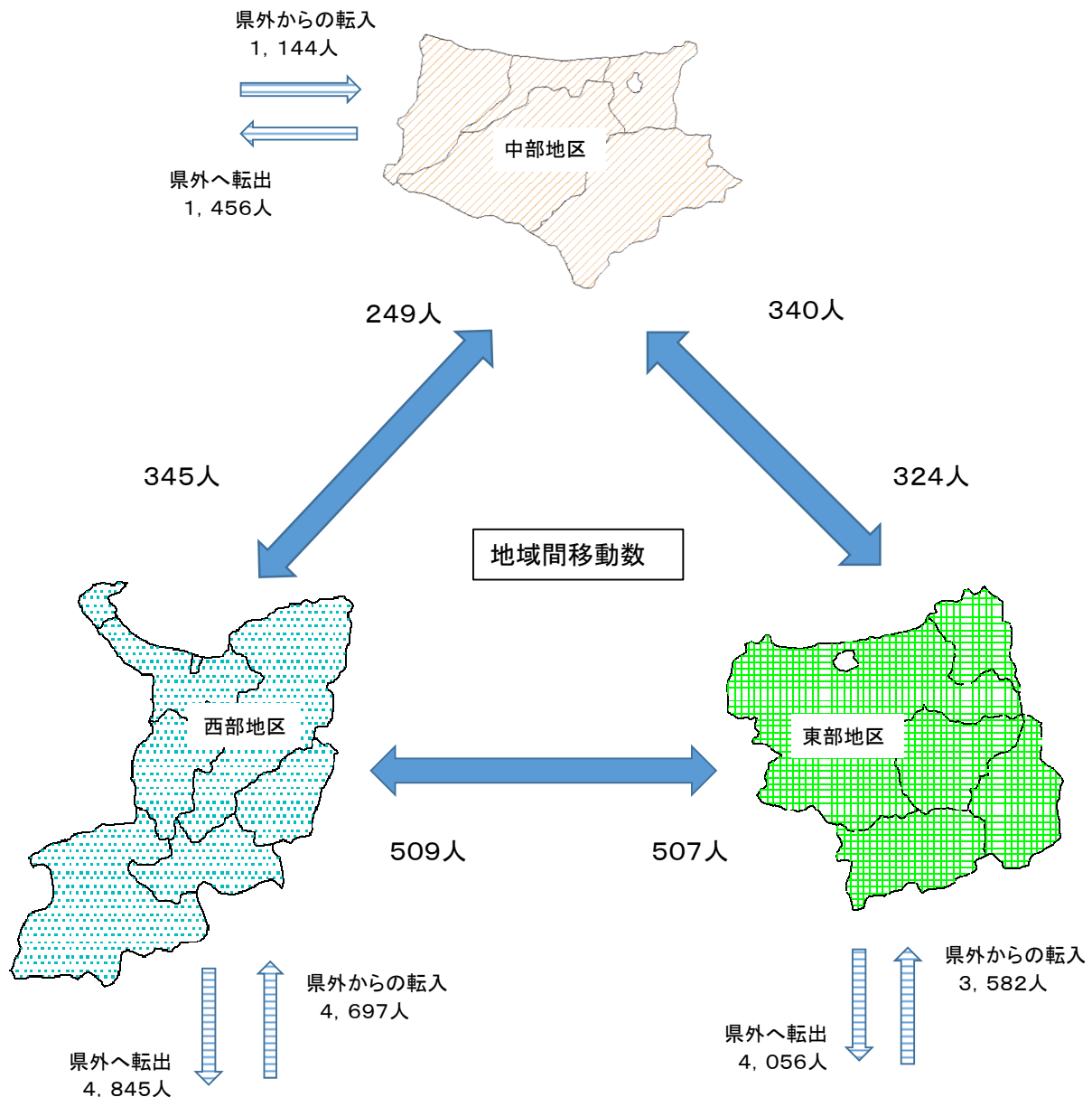
県内移動での転入超過は、米子市が 313 人（男性 143 人、女性 170 人）と最も多く、次いで鳥取市が 113 人（男性 56 人、女性 57 人）であった。

転出超過は、琴浦町が 87 人（男性 25 人、女性 62 人）と最も多く、次いで南部町が 68 人（男性 30 人、女性 38 人）であった。

また、県内移動を地域区別にみると、東部から西部への 509 人（男性 274 人、女性 235 人）が最も多く、次いで西部から東部への 507 人（男性 280 人、女性 227 人）、中部から西部への 345 人（男性 179 人、女性 166 人）であった。

(図 17、統計表第 13 表)

図17 地域別社会動態(R元年10月～R2年9月)



県外との社会動態(県全体)

県外へ転出 10,357人

県外からの転入 9,423人

注) 地域間移動数は、地域内市町村間の移動者を含まない。

(3) 県外転入・県外転出

県外転入者で最も多いのは、島根県から米子市への717人、県外転出者で最も多いのは、米子市から島根県への525人

県外転入者で最も多いのは、島根県から米子市への717人(男性375人、女性342人)で、次いで兵庫県から鳥取市への363人(男性194人、女性169人)であった。

また、県外転出者で最も多いのは、米子市から島根県への525人(男性293人、女性232人)、次いで鳥取市から大阪府への476人(男性248人、女性228人)であった。

県外転入・県外転出での転入超過は、若桜町の12人(男性3人、女性9人)が最も多く、次いで境港市10人(男性21人、女性-11人)であった。

転出超過は、鳥取市の 407 人（男性 187 人、女性 220 人）が最も多く、次いで倉吉市 136 人（男性 59 人、女性 77 人）であった。

また、県外転入・県外転出を地域区分別にみると、県外転入者については東部では兵庫県から 431 人（男性 229 人、女性 202 人）が最も多く、次いで大阪府から 387 人（男性 217 人、女性 170 人）、中部では外国から 216 人（男性 62 人、女性 154 人）が最も多く、次いで岡山県から 136 人（男性 78 人、女性 58 人）、西部では島根県から 977 人（男性 498 人、女性 479 人）が最も多く、次いで岡山県から 422 人（男性 204 人、女性 218 人）であった。

県外転出者については東部では大阪府へ 561 人（男性 282 人、女性 279 人）が最も多く、次いで兵庫県へ 530 人（男性 246 人、女性 284 人）、中部では大阪府へ 197 人（男性 78 人、女性 119 人）が最も多く、次いで岡山県へ 137 人（男性 80 人、女性 57 人）、西部では島根県へ 736 人（男性 402 人、女性 334 人）が最も多く、次いで大阪府へ 467 人（男性 251 人、女性 216 人）であった。（表 8、統計表第 14 表）

表 8 都道府県別県外転入・転出者数(上位市町村)

(単位:人)

都道府県	転入					転出				
	総数	米子市	鳥取市	境港市	その他	総数	米子市	鳥取市	境港市	その他
島根県	1,330	717	250	184	179	1,147	525	265	131	226
岡山県	865	337	283	88	157	869	327	270	79	193
大阪府	828	339	231	43	215	1,225	476	304	97	348
外国	818	280	140	64	334	626	238	104	80	204
兵庫県	783	363	187	40	193	908	471	214	41	182
広島県	768	292	273	47	156	797	328	285	58	126
東京都	680	261	225	46	148	909	324	308	59	218

(4) 4 市における年齢 5 歳階級別、男女別県外転入転出

県外転入者、県外転出者とも 20～24 歳が最も多い。

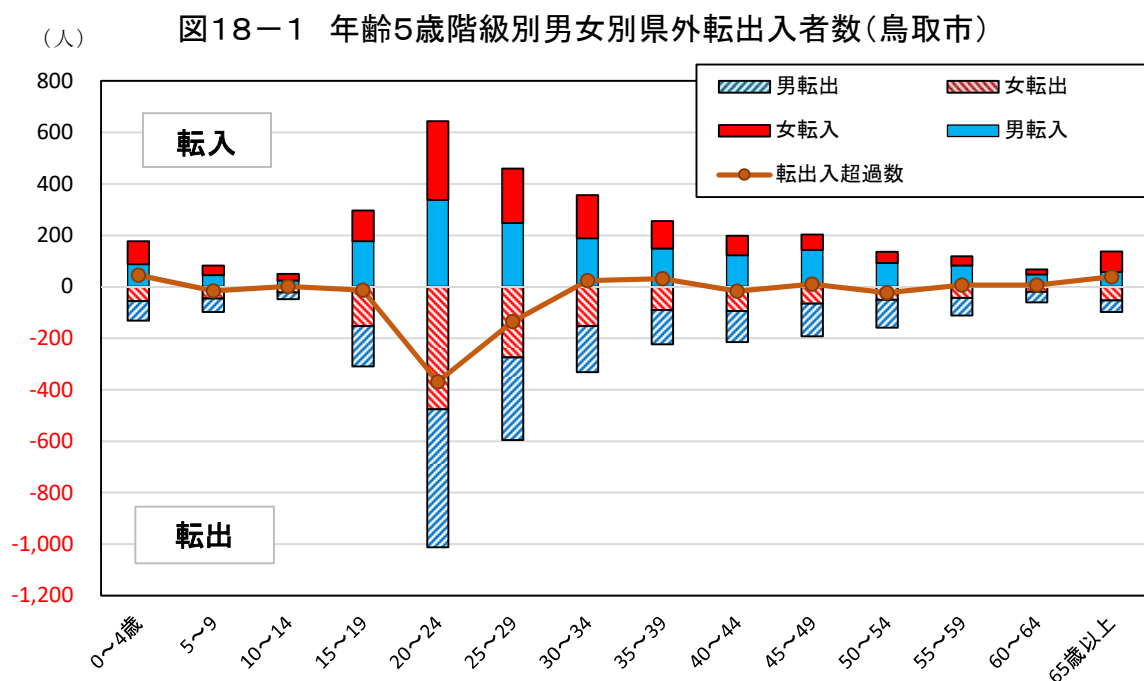
【鳥取市】

県外転入者は、20～24 歳が 643 人（男性 337 人、女性 306 人、県全体の県外転入者総数に占める割合 6.8%）と最も多く、次いで 25～29 歳が 460 人（男性 248 人、女性 212 人、同 4.9%）であった。

県外転出者は、20～24 歳が 1,012 人（男性 536 人、女性 476 人、県全体の県外転出者総数に占める割合 9.8%）と最も多く、次いで 25～29 歳が 595 人（男性 320 人、女性 275 人、同 5.7%）であった。

また、転入・転出超過数をみると、転入超過数は、0～4 歳が 45 人（男性 11 人、女性 34 人）と最も多く、次いで 35～39 歳が 32 人（男性 16 人、女性 16 人）であった。

転出超過数は、20～24 歳が 369 人（男性 199 人、女性 170 人）と最も多く、次いで 25～29 歳が 135 人（男性 72 人、女性 63 人）であった。（図 18-1、統計表第 15 表）



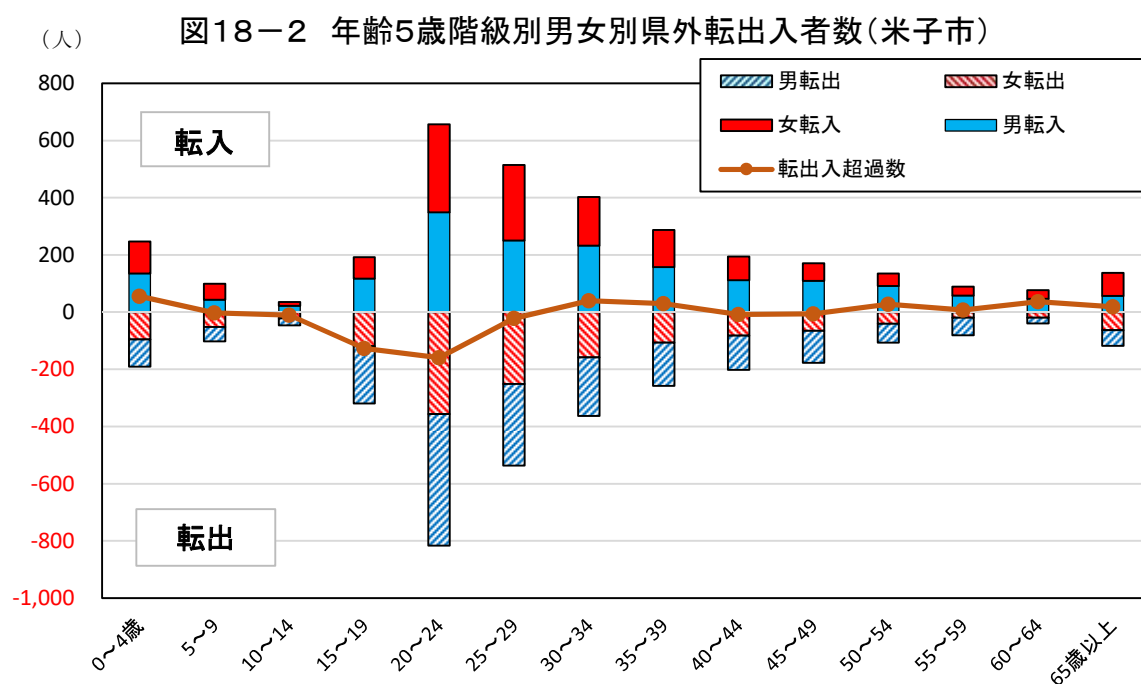
【米子市】

県外転入者は、20～24歳が657人（男性349人、女性308人、同7.0%）と最も多く、次いで25～29歳が515人（男性251人、女性264人、同5.5%）であった。

県外転出者は、20～24歳が816人（男性460人、女性356人、同7.9%）と最も多く、次いで25～29歳が536人（男性285人、女性251人、同5.2%）であった。

また、転入・転出超過数をみると、転入超過数は、0～4歳が56人（男性39人、女性17人）と最も多く、次いで30～34歳が40人（男性28人、女性12人）であった。

転出超過数は、20～24歳が159人（男性111人、女性48人）と最も多く、次いで15～19歳が127人（男性83人、女性44人）であった。（図18-2、統計表第15表）



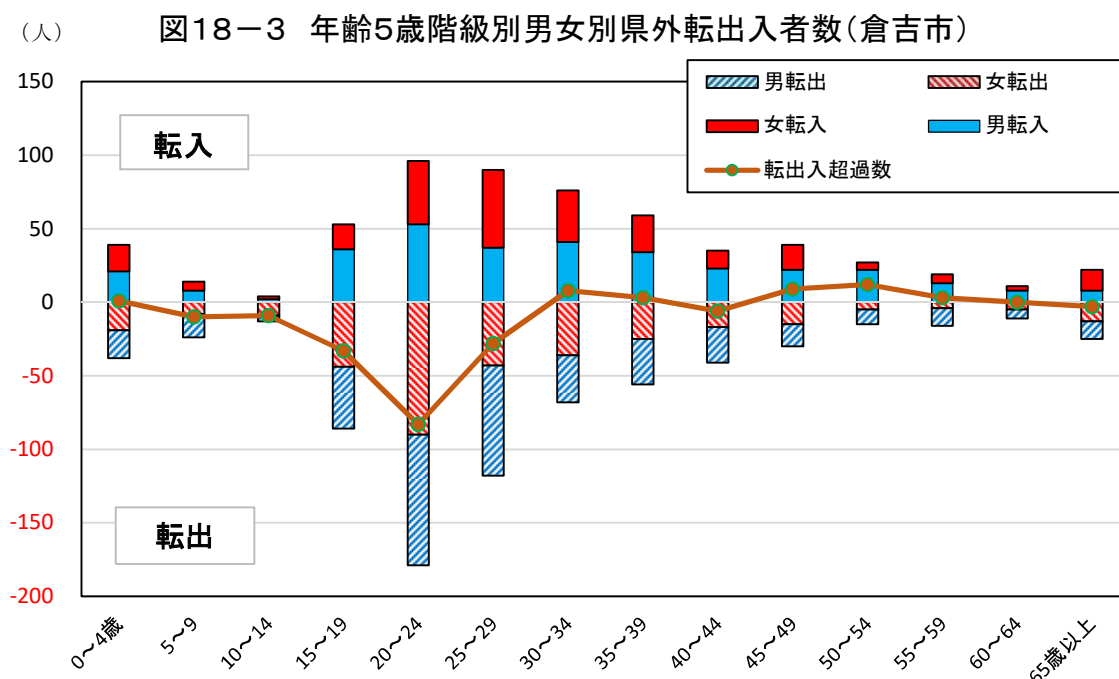
【倉吉市】

県外転入者は、20～24 歳が 96 人（男性 53 人、女性 43 人、同 1.0%）と最も多く、次いで 25～29 歳が 90 人（男性 37 人、女性 53 人、同 1.0%）であった。

県外転出者は、20～24 歳が 179 人（男性 89 人、女性 90 人、同 1.7%）と最も多く、次いで 25～29 歳が 118 人（男性 75 人、女性 43 人、同 1.1%）であった。

また、転入・転出超過数をみると、転入超過数は、50～54 歳が 12 人（男性 12 人）と最も多く、次いで 45～49 歳が 9 人（男性 7 人、女性 2 人）であった。

転出超過数は、20～24 歳が 83 人（男性 36 人、女性 47 人）と最も多く、次いで 15～19 歳が 33 人（男性 6 人、女性 27 人）であった。（図18－3、統計表第15表）



【境港市】

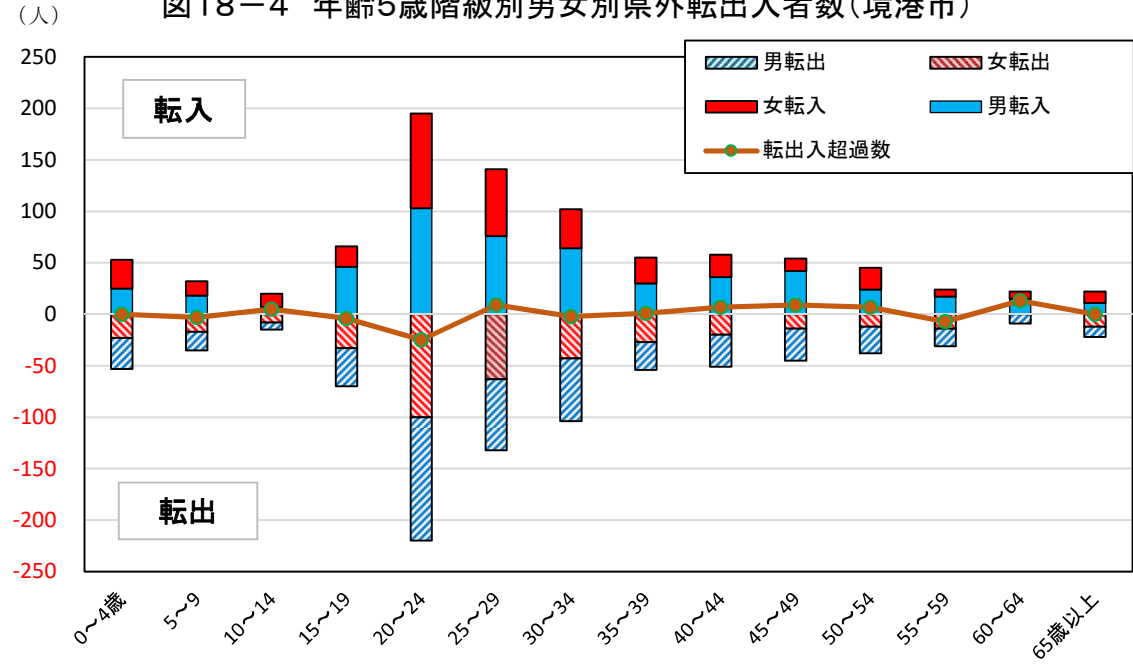
県外転入者は、20～24 歳が 195 人（男性 103 人、女性 92 人、同 2.1%）と最も多く、次いで 25～29 歳が 141 人（男性 76 人、女性 65 人、同 1.5%）であった。

県外転出者は、20～24 歳が 220 人（男性 120 人、女性 100 人、同 2.1%）と最も多く、次いで 25～29 歳が 132 人（男性 69 人、女性 63 人、同 1.3%）であった。

また、転入・転出超過数をみると、転入超過数では、60～64 歳が 13 人（男性 6 人、女性 7 人）と最も多く、次いで 25～29 歳の 9 人（男性 7 人、女性 2 人）及び 45～49 歳の 9 人（男性 11 人、女性 -2 人）であった。

転出超過数は、20～24 歳が 25 人（男性 17 人、女性 8 人）と最も多く、次いで 55～59 歳が 7 人（女性 7 人）であった。（図18－4、統計表第15表）

图18-4 年齡5歲階級別男女別県外転出入者数(境港市)



<参考> 外国人（国籍不詳を含む）の推計人口

1 推計人口と世帯数

- ・令和2年10月1日現在の推計人口（国籍不詳を含む。以下同じ。）は、6,994人で前年に比べ146人増加
- ・男女別人口は、男性2,802人、女性4,192人で、人口性比は66.8（P.3表1）

2 年齢別3区分別人口

- ・年少人口は287人、生産年齢人口は5,071人、老年人口は550人
- ・年少人口割合は4.9%、生産年齢人口割合は85.8%、老年人口割合は9.3%
- ・年齢5歳階級別人口は、男女とも20～24歳が最も多く（男性405人、女性655人）次いで男女とも25～29歳が多い（男性396人、女性571人）（P.6表2、表3）

3 市町村別推計人口

- ・市町村別の推計人口は、米子市の2,484人（男性937人、女性1,547人）が最も多く、次いで鳥取市の2,400人（男性1,192人、女性1,208人）（表9）

表9 市町村別推計人口、年齢3区分別人口

（単位：人）

区分	推計人口			年齢3区分別人口		
	総数	男	女	年少人口	生産年齢人口	老年人口
県計	6,994	2,802	4,192	287	5,071	550
鳥取市	2,400	1,192	1,208	118	1,673	183
米子市	2,484	937	1,547	116	1,550	234
倉吉市	424	195	229	16	331	33
境港市	501	128	373	13	420	50
岩美町	100	46	54	2	96	1
若桜町	69	5	64	0	69	0
智頭町	88	17	71	0	87	0
八頭町	71	12	59	3	65	1
三朝町	53	21	32	6	45	2
湯梨浜町	78	12	66	3	74	1
琴浦町	232	69	163	3	211	15
北栄町	107	24	83	1	103	3
日吉津村	34	12	22	0	21	9
大山町	122	44	78	4	103	12
南部町	95	39	56	0	93	2
伯耆町	57	12	45	2	51	4
日南町	43	33	10	0	42	1
日野町	23	2	21	1	22	0
江府町	13	2	11	0	13	0

注）推計人口に年齢不詳は含まれるが、年齢3区分に年齢不詳は含まれない。

4 自然動態

- ・出生数は11人（男性4人、女性7人）
- ・死亡数は15人（男性11人、女性4人）（表10）

表10 自然動態(外国人)

(単位:人)

月次	出生			死亡		
	総数	男	女	総数	男	女
総数	11	4	7	15	11	4
10月	1	1	0	3	3	0
11月	1	0	1	2	2	0
12月	1	1	0	2	1	1
1月	1	0	1	0	0	0
2月	1	0	1	1	0	1
3月	0	0	0	0	0	0
4月	1	0	1	2	1	1
5月	0	0	0	2	2	0
6月	0	0	0	1	1	0
7月	3	1	2	1	0	1
8月	2	1	1	1	1	0
9月	0	0	0	0	0	0

5 社会動態

(1) 県内移動

- ・県内移動者数は101人（男性29人、女性72人）
- ・転入が最も多いのは北栄町の17人（男性4人、女性13人）
- ・転入超過数は、北栄町の12人（女性12人）及び湯梨浜町の12人（男性2人、女性10人）が最も多く、転出超過は、琴浦町の25人（女性25人）が最も多い。

(2) 県外転入・県外転出

- ・県外転入者数は1,047人（男性454人、女性593人）で、県外転出者数は897人（男性394人、女性503人）
- ・県外転入者数で最も多いのは、鳥取市の296人（男性146人、女性150人）で、次いで米子市の236人（男性101人、女性135人）
- ・県外転出者数で最も多いのは、鳥取市の316人（男性147人、女性169人）で、次いで米子市の169人（男性83人、女性86人）
- ・転入超過数で最も多いのは、米子市の67人（男性18人、女性49人）で、次いで琴浦町の36人（男性3人、女性33人）（表11）

表11 市町村別社会動態(外国人)

(単位:人)

	県外							県内							社会増減数
	転入者数			転出者数			転入超過数	転入者数			転出者数			転入超過数	
	総数	男	女	総数	男	女		総数	男	女	総数	男	女		
県計	1,047	454	593	897	394	503	150	101	29	72	101	29	72	0	150
東部地区	377	173	204	383	170	213	-6	29	12	17	21	6	15	8	2
中部地区	222	84	138	187	68	119	35	44	10	34	50	8	42	-6	29
西部地区	448	197	251	327	156	171	121	28	7	21	30	15	15	-2	119
鳥取市	296	146	150	316	147	169	-20	13	3	10	19	5	14	-6	-26
米子市	236	101	135	169	83	86	67	13	4	9	8	0	8	5	72
倉吉市	94	56	38	68	41	27	26	10	2	8	17	1	16	-7	19
境港市	124	49	75	89	33	56	35	9	2	7	12	10	2	-3	32
岩美町	20	4	16	42	14	28	-22	13	7	6	2	1	1	11	-11
若桜町	13	4	9	0	0	0	13	0	0	0	0	0	0	0	13
智頭町	35	14	21	9	1	8	26	0	0	0	0	0	0	0	26
八頭町	13	5	8	16	8	8	-3	3	2	1	0	0	0	3	0
三朝町	14	5	9	24	4	20	-10	3	0	3	1	1	0	2	-8
湯梨浜町	19	9	10	37	16	21	-18	14	4	10	2	2	0	12	-6
琴浦町	80	8	72	44	5	39	36	0	0	0	25	0	25	-25	11
北栄町	15	6	9	14	2	12	1	17	4	13	5	4	1	12	13
日吉津村	3	0	3	0	0	0	3	0	0	0	3	2	1	-3	0
大山町	48	24	24	37	24	13	11	1	0	1	3	1	2	-2	9
南部町	20	13	7	17	11	6	3	0	0	0	0	0	0	0	3
伯耆町	6	2	4	11	5	6	-5	1	0	1	1	1	0	0	-5
日南町	8	7	1	0	0	0	8	2	0	2	1	0	1	1	9
日野町	0	0	0	1	0	1	-1	0	0	0	2	1	1	-2	-3
江府町	3	1	2	3	0	3	0	2	1	1	0	0	0	2	2

注1) 転入超過数とは、転入者数から転出者数を差し引いた数。転入超過数がマイナス(－)の場合は、転出超過を示す。

注2) 地域別の県内転入者数及び県内転出者数の数値については、地域内市町村間の移動者を含む。